平成30年3月
勝浦市議会定例会会議録（第6号）

平成30年3月6日

○出席議員 14人

1番 藤本 治 君	3番 久我 恵子 君	4番 照川 由美子 君
5番 磯野 典正 君	6番 鈴木 克己 君	7番 戸坂 健一 君
8番 佐藤 啓史 君	9番 黒川 民雄 君	11番 松崎 栄二 君
12番 丸 昭 君	13番 岩瀬 洋男 君	14番 土屋 元 君
15番 岩瀬 義信 君	16番 寺尾 重雄 君	

○欠席議員 1人

10番 末吉 定夫 君

○地方自治法第121条の規定により出席した者の職氏名

市 長 猿田 寿男 君	副 市 長 関 重夫 君
教 育 長 藤平 益貴 君	総 務 課 長 酒井 清彦 君
企 画 課 長 軽込 一浩 君	財 政 課 長 齋藤 恒夫 君
税 務 課 長 土屋 英二 君	市 民 課 長 植村 仁 君
介 護 健 康 課 長 大森 基彦 君	福 祉 課 長 関 富夫 君
生 活 環 境 課 長 兼 長 田 悟 君	都 市 建 設 課 長 鈴木 克己 君
清 掃 セ ン タ ー 所 長	
農 林 水 産 課 長 平松 等 君	観 光 商 工 課 長 高橋 吉造 君
会 計 課 長 菰田 智 君	教 育 課 長 岡安 和彦 君
社 会 教 育 課 長 吉清 佳明 君	水 道 課 長 大野 弥 君

○職務のため議場に出席した事務局職員の職氏名

事 務 局 長 渡辺 茂雄 君 議 事 係 長 原 隆宏 君

議 事 日 程

議事日程第6号

第1 議案上程・質疑・委員会付託

議案第21号 平成30年度勝浦市一般会計予算

議案第22号 平成30年度勝浦市国民健康保険特別会計予算

議案第23号 平成30年度勝浦市後期高齢者医療特別会計予算

議案第24号 平成30年度勝浦市介護保険特別会計予算

議案第25号 平成30年度勝浦市水道事業会計予算

第2 請願・陳情の委員会付託

請願第1号 JR外房線の利便性及び安全性向上に関する請願

陳情第1号 住民の健康増進と2020東京オリンピック・パラリンピックにむけて受動喫煙防止条例の早期制定を求める陳情

陳情第2号 県民の健康増進と2020東京オリンピック・パラリンピックにむけて「千葉県受動喫煙防止条例の早期制定を求める意見書」の提出について

陳情第3号 勝浦市における、受動喫煙防止対策に関する陳情

陳情第4号 受動喫煙防止対策についての陳情

第3 休会の件

開 議

平成30年3月6日(火) 午前10時開議

○議長(岩瀬洋男君) ただいま出席議員は14人で定足数に達しておりますので、議会はここに成立いたしました。

これより本日の会議を開きます。

本日の日程は、お手元へ配付したとおりでありますので、それによってご承知を願います。

議案上程・質疑・委員会付託

○議長(岩瀬洋男君) 日程第1、議案を上程いたします。

議案第21号 平成30年度勝浦市一般会計予算、議案第22号 平成30年度勝浦市国民健康保険特別会計予算、議案第23号 平成30年度勝浦市後期高齢者医療特別会計予算、議案第24号 平成30年度勝浦市介護保険特別会計予算、議案第25号 平成30年度勝浦市水道事業会計予算、以上5件を一括議題といたします。

なお、議案第21号 平成30年度勝浦市一般会計予算の歳入全般につきましては、既に質疑が終了しております。歳出につきましては途中でありましたので、3月5日に引き続き質疑を行います。質疑はありませんか。鈴木克己議員。

○6番(鈴木克己君) おはようございます。それでは、30年度の一般会計について質問をさせていただきます。最初に、まず1点目といたしましては、65ページの総務管理費、市制施行60周年記念事業についてお伺いいたします。これにつきましては既に全員説明会で、5つの事業を60周年記念事業ということで実施するという概要を説明をいただきました。その中で、特にNHKののど自慢の問題と灯台の公開イベントについて、少し詳しくまたお聞かせいただきたいと思っております。

まず、今回、この資料と説明書によりますと、公開番組開催に係る会場設営業務委託料として250万円の計上であります。内容は、仮設ステージ設置・撤去、1階客席をパイプ椅子設置・撤去、プロジェクターの映像投影、諸経費という内容になっています。まず最初に、パイプ椅子700脚となっていますが、全体の収容人数をどの程度と見込み700脚を入れるのか。

それと、700脚入ると、恐らく1,000席にはなるということですが、なぜ今1,000席にする必要があるのか。現状の観覧席は827席でしたか、説明では、そこにNHKのテレビカメラを設置しなければならないので幾分か座席が減ってくるという中において、なぜ1,000席にする必要があるのか。キュステの現状で対応ができないのか。これについてはNHKからの要望があってやるのであればいた仕方ない。NHKののど自慢については、キュステを500席から800席に規模を大きくしたときの第1番目の説明が、とにかく800席なければNHKののど自慢も呼べないという最初の話があって、一般質問でもいろいろ出ていましたけど、ここがこの地域の核となる施設であれば、まあいた仕方ないということで800席での建設になったわけですが、当初は最低でも800席なければのど自慢も呼べないという話が議会の中でありました。そういうことを踏まえて今の状況ではできないのかということと、NHKからの要望があって1,000席以上にするのかということ、一度お聞かせください。

それと、プロジェクターについては、映像投影ということで、やっている部分をテレビカメラ、プロジェクターの大きい画面で放送するんでしょうけど、置く場所はどこなのかについてお伺いします。

あと、仮に1,000席としておきます。1,000席以上の席にするために250万円をかけるんですから、私としては、NHKののど自慢は現状のキュステの観覧席で、収容人数800人かもしれないけど、それで対応しておいて、250万円をせっかくつけるのであれば、もう一つ60周年記念事業を250万円で増やしてもいいのかなということも考えられると思うんです。例えば、60年ですので、この60年間に勝浦市が成長してきた中において、年配の敬老の方たちのために250万円使って、演芸鑑賞会とか、そういうものを考えてもいいのではないかなというふうにも思うわけですけど、もう5つ決まったからそれでやるんだよということであれば、せっかく60周年をお祝いするに当たって、もう少し市民に対しての色があってもいいのかなと思います。それがまず1回目の、のど自慢に係るものであります。

灯台の公開イベントが計画されています。60周年記念勝浦灯台公開イベントということで、会場設営とイベント式典と委託料とかありますが、これは大いに結構なことでありまして、灯台も、以前はここが観光施設として使えないかということで、保安庁と実際に現場を見たこともあります。ただ、そのときに、周辺、あそこは、すぐ崖地になって、結構危険な箇所だということがあったので、1点は、その危険防止対策をどのように考えているのかということと、公開した場合、勝浦灯台ということで、人がかなり入ると思うんです。その辺の対応、一応警備員を雇って周辺を警備するということになってはいますが、そのやり方、シャトルバスを運行してということもありますので、その辺をどのように対応を考えているのかについてお伺いします。

次に、67ページの市民会議開催事業です。市長が就任されてからもう7年、その間にも市民会議はいろいろやってきていますが、30年度は何をテーマとしてやるのかについてお伺いします。

次に、73ページ、昨日も出ておりました道の駅整備事業、今回、私、一般質問の中でもこれを取り上げさせていただきました。そして、道の駅を、実際いつから開設するのかについては、当初のところでは平成31年3月に今の松野バイパスの第2工区の部分が開通するので、それにあわせてということでありましたが、この前の一般質問で明らかになったのは、その地域の整備がまずできないといけない。農振農用地の部分の優良農地の場所を使っての道の駅の設置の検討をされているので、昨日の同僚議員の質疑の中でも、小さな拠点の場所として、それは最初から言われていますが、そのために松野地先に道の駅を設置していくんだと。そして、そこは297号線から来れば勝浦市の玄関口になる、そこが勝浦市のこれからの一つのポイントになるんだということではありますが、これは今のところ計画ばかりで、今度やるのは基本設計の策定に入るといふことですので、平成29年度に実施した計画、そして事業手法の検討をもとに計画化していくということですが、これらについて、今後、この計画の後に出てくるのは実施計画になって、建設になるわけですけど、市長はこの前の一般質問の中では早い期間ということではありますが、おおむね、いつごろをめどに行っていきたいかということにいてお伺いします。

次に、147ページの勝浦産ブランド水産物PR推進事業、これは今までもやってきているキンメダイ、今ちょうどキンメが旬で、キンメも、とれたり、とれなかつたり、なかなか難しいようですが、勝浦のキンメダイ。キンメダイはあちこちでブランド化されています。ただ、これを勝浦キンメダイということをやっていますし、非常にいいという状況であります。私が今回質問したいのは、そのキンメダイと同等に、沿岸小型漁船で、今、カジキが相当揚がっています。カジキについても、沿岸小型の組合長を初め関係者から話を聞いたら、これからはカジキも売っていかねばいけないうことで、市場のほうに行くと、勝浦のカジキは非常に脂が乗っていて品質は高いらしいです。ということで、カジキについてのPRも、行政も加わってやっていったらいいんじゃないかなと思いますので、その辺について、関連になってしまいますけど、キンメダイとあわせて、勝浦水産物のPRということで、カジキも一緒にやっていくほうがいいのかということ、お聞きをしたいと思います。

148ページの水産物供給基盤機能保全事業、これは予算化していただきまして、ありがとうございました。3年、4年かかっていますが、農林水産課長も、国からの補助金を初めとして、ここを取るまで非常にご苦労があったというふうに向っていますので、質問ではありません、御礼を申し上げます。

次に、157、158ページで、地域おこし協力隊、観光商工課の商工費になりますが、昨年度はなかったんですが、今度2名を協力隊員として入れるという予算案です。9カ月ですので、7月からになりますか、その間、3カ月の間に募集してやっていくということですが、具体的に、協力隊にどんなことを要求して、どんな仕事をしてもらうのかについてお伺いします。

165ページ、道路橋りょう費の社会資本整備総合交付金事業の中の、昨日も出ておりました道路改良工事費4,000万円、勝浦荒川線です。まず1点目に、道路改良、Lイコール300になっています。起点・終点はどこからどこまでなのか。

次に、この4,000万円。2,000万円は社会資本整備総合交付金ということですが、交付金の残額についても全て税金なので、その辺については、国からお金をもらえるからという話ではなくて、国からもらうお金も税金です。そこをしっかりと確認しておかないと、市から出

すのは半分でいいということではありませんので。設計の詳細、昨日聞いておりますが、改めて、300メートルの設計、どのようにされるのか、お伺いします。

それと、市道ですので、市道の場合は、通常、認定市道になります。勝浦荒川線については、始点・終点は貝掛から串浜になると思いますけど、まず荒川線全体の起点・終点をお伺いすると、今回の開業、バイパスのようになったところだと思いますが、市道認定の必要性はないのか、あわせて、丁字路でつながっている中谷廻り山線についても市道認定の必要性がないのかについてお伺いします。

もう一点、この線については、もとの太陽光発電所ができる前の道路については、たしか市の道路照明があった。今回改良されてから一個もないんです。丁字路のところに1個と、清掃センターの入口のところに1個、あとは、上野方面のトンネルのところに1個、ソーラー発電所の中は、道路は一応車は通れるようになってはいますが、夜になると真っ暗になっています。この照明は、本来であれば、私は事業者がつけて当然だと思うんですけど、その事業地内、そこに市道通っているので、その辺が今後どういうふうに対応するのか、私は事業者につけさせることが必要ではないかと思いますが、道路照明について、今ないので、今後どういう対応をするのかについてお伺いします。

168ページ、公園施設維持管理経費のうち備品購入費350万円がございまして。潮風公園ほか、複合遊具で350万円の公園遊具が設置されようとしています。実は昨年6月議会で、健康づくりと公園活用をテーマに一般質問をさせていただきました。そのときに、健康遊具、これは大人用になると思いますが、散歩をしていて、途中で体を伸ばしたりするようなチェアとか、そういうものがあるんですが、それらは、このときに市長答弁で答えられているんですけど、その答弁書をつくったのは恐らく都市建設課長だと思いますので、どんな答弁をしたか、一度伺いたい。その後、この350万円の具体的な内容、どんな遊具が、どこに設置されるのか、その計画があるのかということについてお伺いをします。

最後に、208ページ、興津集会所整備事業であります。これはかねてから、興津駅前の集会所は相当老朽化して移転を検討しているということで、今回、集会所移転改修工事設計業務委託料1,058万7,000円が上がっています。まず、この集会所移転先と、どのような改修を、設計を委託する予定なのかについてお伺いします。以上です。

○議長（岩瀬洋男君） 答弁を求めます。吉清社会教育課長。

○社会教育課長（吉清佳明君） お答えいたします。私からは、65ページの市制施行60周年記念のNHKのど自慢の関係であります。幾つか質問がありましたけれども、順不同になるかもしれませんが、説明をさせていただきますが、まず、のど自慢ですけれども、主催についてはNHK千葉放送局と勝浦市であります。それぞれ役割分担がございまして。NHKのほうは、もちろんですが、番組制作にかかわる業務及びその経費、勝浦市については、番組制作にかかわらない業務及びその経費、内容としては、イベントの周知全般、観覧申し込みの受付・整理・対応及び予選会場に入り切れない観覧者への対応ということで、前日の予選会場、予選のときには250組の方が予選に参加するわけで、当然応援の方も、ホールの中は先着順ということで、入り切れない人が通常非常に多いということで、そういう予選のときにホールに入り切れなかった人の対応として、先ほど出ましたプロジェクターでロビーのほうで見せる、そういう対応をNHKのほうでは求めてきております。それと、会場の確保・実施を可能とする基本条件を満たす

ための会場整備、要するに今回の対応としては、まず、NHKの求めるステージの広さ、それと、ガラス窓の遮光、要するに、今回平土間にしますので、会議室も使うということで、ガラス窓の遮光の関係、あと、楽屋の土足の養生とか、そういう対応をとるんですけども、そういうことを勝浦市では分担として求められております。

それで、キュステの通常のホールの使い方ですけれども、先ほどのNHKの求めるステージは、この通常の形ですと確保できないということで、ほかのイベントでもよくあるんですけども、前の3列を地下に収納してステージを広くする必要があるということがあります。それと、カメラですけれども、1階に3つ、2階に1つカメラを設置します。また、音響の調整の機材も入ります。カメラの設置によって陰になる部分も客席としては使えなくなりますので、そういう関係でおおよそ200席程度減ってしまうということでもあります。定員は826席ですけれども、そういう関係でおおよそ六百二、三十席になると見ております。一方で、平土間にした場合、大会議室も通してやった場合には950席は確保できることがわかりましたので、そこでおおよそ300席分は、多くの方に見ていただくことができるということでもあります。

先ほど250万円の経費というお話でしたけれども、平土間にするので、約1メートル嵩上げをして仮設ステージをつくります。それと、パイプ椅子、机等もそうですけれども、そういう機材の関係、合わせておおよそ180万円が平土間によって余分にかかる経費でありますけれども、本市において、NHKののど自慢も、40年ぶりの、市民の待ちに待ったイベントでありますので、市としても、できる限り多くの方に見てもらいたいということで、平土間にして950席確保できる方法を選択をしたということでもあります。

ちなみに、出演の申し込みについては3月1日で締め切られましたけれども、518組の出演の申し込みがありました。前日の予選会に出場できるのは、そのうちの250組、これも書類審査等で半分の方は削られ、前日に250組が参加をして審査をして、当日出られるのは20組ということでもあります。

観覧申し込みについては、今月の19日が締め切りでありますけれども、今現在、2,996枚のはがきが来ています。1枚のはがきで2人入ることになりますので、人数でいうと5,992人、今のところ、おおよそ6,000人の申し込みであります。今現在でもおおよそ6倍強の競争率ということで、そういうこともありまして、できる限り多くの方に見ていただきたいということでもあります。

それと、1,000席についてNHKからの要望があったのかというのは、今ご説明したとおり、必ずしも1,000席を設けてくれという要望はありませんでしたけれども、これは市の判断で、できるだけ多くの人に見てもらいたいということでもあります。

プロジェクターの置く場所については、ロビー、エントランスホールで投影をして、入り切れなかった人に見ていただくというふうな形になります。NHKののど自慢については以上です。

それと、208ページの興津集会所の整備事業の関係で、新年度、何をやるのかということでもありますけれども、1階に集会室、調理室、和室等を、中学校の校舎を改修して、そういう工事を行う予定ですので、それに係る設計業務の関係、それと、学校から集会所になることによって用途変更しますので、特に火災対応、防火の関係等で非常にハードルが高くなったというか、集会所として使うに当たって行う工事というのがいろいろと出てきますので、それに対応した

工事の設計、それと、耐震補強、平成22年度に耐震診断をやっておりますけれども、そのときのI s値は0.59でありまして、集会所としては0.6ないといけませんので、それに係る耐震診断を行う必要があるということで、それに伴う耐震補強工事も予定をしております。そういう内容であります。以上でございます。

○議長（岩瀬洋男君） 次に、高橋観光商工課長。

○観光商工課長（高橋吉造君） お答えいたします。私からは、まず最初に65ページの勝浦灯台一般公開の件につきましてお答えいたします。その灯台関連の質問の1点目ですけれども、危険の防止対策についてでございますが、まず灯台の周辺エリアにつきましては、これは海上保安庁の所有する土地も含まれますので、保安庁との協議の上、草刈り等、さらに転落の危険がある場合は、その立ち入りエリアの制限を行う等の措置をしていきたいと考えております。灯台の中につきましては、保安庁のほうで公開用に施設の整備をしております。階段の部分については手すりの補強をしております。それから、展望台につきましては、柵を、今までの2分の1の幅、今までは小さい子どもが乗り出すと頭がすっぽり抜けてしまうぐらいの柵の広さだったんですけれども、それを2分の1の幅にしまして、転落の危険性をより低くするような形に措置をしております。

それから、警備のやり方につきましては、これも今後、保安庁との話の中で警備員の配置等を決めていきたいと思うんですけれども、展望台の上なり、下なり、要所要所に警備員を配置していきたいと考えております。

それから、157ページの地域おこし協力隊の件でございますけれども、2名ということで予算を上げさせていただいているところでございますが、これは一人一人の役割分担を決めて募集することになると思いますが、朝市の活性化に対して1名、これは具体的にまだどういう人材が来るかによって、やってもらうこともまた変わってくるのかなと思っておりますけれども、朝市に具体的に来店してもらい、その中で朝市を活性化していってもらいようなことを考えております。その中で朝市全体の運営も任せられるような方であれば、そういう運営についてもかかわってもらえればと考えております。もう一人の方につきましては、これはシティプロモーション、フィルムコミッション関係の活動をお願いする形で募集を考えております。具体的にはロケとかCM等、映像を通してシティプロモーションを全国、世界に広められるような活動をしていただきたいと考えております。以上でございます。

○議長（岩瀬洋男君） 次に、軽込企画課長。

○企画課長（軽込一浩君） お答えいたします。私からは、大きな2点目の、67ページ、市民会議につきまして、まずご説明させていただきます。この市民会議の予算でございますけれども、委員22名、回数5回ということで予算は計上させていただいております。なお、テーマにつきましては現在未定ということで、今後、テーマ等につきまして募集なりかけてまいりまして決定してまいりたいと考えております。そういう中で、過去の事例といたしましては、平成23年度市政全般並びに当時の市民会館跡地の活用、翌年度は保育所等の再編について、また、（仮称）市民文化会館の活用等についてということがテーマとしてございまして、平成29年度におきますと、駅前ロータリーにございます掲示板、工作物、その設置の可否について検討をいただいております。

続きまして、73ページの道の駅に関してでございますけれども、現在、平成29年度におきま

して基本計画並びに事業手法の検討ということで進めておりまして、それを踏まえて来年度基本設計を予算のほうに計上させていただいてございます。そういう中でも、また、基本計画ができた段階で庁内で十分議論をいたしまして、財源手当がつくとか、その辺も考慮しながら、次のステップでございまして基本設計に進んでまいりたいと考えております。以上でございます。

○議長（岩瀬洋男君） 次に、平松農林水産課長。

○農林水産課長（平松 等君） お答えいたします。勝浦産のマカジキのブランド化というお尋ねだと思いますが、マカジキのブランド化につきましては、今年2月17日に築地でPRイベントを開催したところでございます。この主催といたしましては、千葉県広域水産再生委員会夷隅地区部会が主催しました。その構成から申し上げますと、水産に係る行政、生産者の主体であります漁協、県水産事務所、漁連が構成となっておりまして、これらが連携して取り組んだところであります。勝浦市からはマカジキ、いすみ市からはサワラ、御宿町からはキンメ、この3種の魚につきましてPRイベントを開催いたしました。

勝浦に関しまして、マカジキでございますが、マカジキにつきましては、勝浦は県内でも主要な水揚げを誇るものの、従来から北陸中心にこれを出荷していた。そうしたところ魚価がなかなか上がらない、低迷だと、これは地元の漁師から話がございます、であれば、築地にPRとして乗り込んでしようじゃないか。築地では、今まで限られた数しか入荷がなかったということから、広く仲買と築地に出入りする料理人、すなわちプロに対して試食を振る舞ったところです。このイベントのネーミングですけれども、「すご腕漁師が振る舞う試食会」と命名して、1日限りでございますが、築地にある築地魚河岸、数年前にできた新たな商業施設を兼ねた施設でございますが、その中の、魚河岸スタジオといたしまして、料理教室等できるキッチンをお借りして、当日マカジキをさばいて試食会を行いました。当日は、参加といたしまして、120名の仲買、料理人が来て、感想としてはなかなか評価が高くて、これに対して関心が高いような、そうした良好な結果が得られました。

今後につきましては、今回、市の農林水産課の職員で主体的に交渉と調整を重ねまして、こういう人脈とかルートが築けましたので、新たなPRの取り組みも今検討しているところであります。先方からも新たな取り組みのアプローチもございまして、農産物をという話もございまして、こういう機会にどんどん取り組みの可能性を拡大させていけたらと思っております。

キンメについて申し上げます。予算計上してある内容ですが、PRイベントといたしまして、勝浦市内で開催するイベントの際のキンメ汁の配布ですとか、そういうものの経費でございます。キンメにつきましては、漁業者の方の日ごろの徹底した資源管理の取り組みにより、市場でも評価は大分高いと聞いております。市といたしましては、県や漁協と連携いたしまして、PR等を今後も引き続きやっていきたいと思っております。

キンメについて、ブランド化の取り組みを行っている成果を申し上げますと、キンメの単価の推移で申し上げます。平成12年が1キロ当たり888円であったものが、平成28年ですと1キロ当たり2,208円、3倍弱の値が上がっています。全体的な水揚げ金額は、御宿から鴨川までの合計になりますけれども、平成10年では3億4,000万円であったものが、平成28年では16億円を超える額まで伸びております。こうしたことから、さらに所得向上の取り組みにつながりますよう努めてまいりたいと考えております。以上です。

○議長（岩瀬洋男君） 次に、鈴木都市建設課長。

○都市建設課長（鈴木克己君） お答えいたします。まず、1点目の市道勝浦荒川線の4,000万円の予算計上ではありますが、これは昨日の答弁でもありましたように、概算設計費のうち、社会資本整備総合交付金を見込んで4,000万円を計上させていただいたものであります。その4,000万円に見合った延長が、300メートルというものであります。実際の改良を全てやらなければならない延長は、約450メートルであります。これの300メートルの中の起点と終点はどこかということは、これはなかなか難しいので、450メートル整備しなければいけませんので、その起点と終点ということであれば、起点は中谷廻り山線と荒川線の交差点付近、そこから荒川方面に向かった沢山トンネルの手前まで、その450メートルが起点と終点になるというものであります。

2点目の設計の詳細ということでございますが、現在委託業務途中でありますので詳細はまだわからないのでありますが、道路構成は、昨日と同じように、車道が2.75メートル、歩道が3メートル、路肩が0.75メートル、歩道側保護路肩が0.5メートルであります。

それで、今回の委託業務でわかってきたことなのでありますが、今現在、舗装の厚さは5センチあるとのことでした。路盤のほうも、切り土による道路を建設しているところが大半でありますので、路盤も良好なため、今の舗装の面でそのままいける可能性も高いのではないかとこのように聞いております。

3点目の、今の勝浦荒川線の起点と終点はどこなのかということですが、起点は串浜春日台地先、旧国道の交差点、そこから荒川方面に行きまして県道との交差点まで、これが起点と終点でございます。

あと、今現在改良されている勝浦荒川線と中谷廻り山線、市道認定の必要があるのではないかとこのご質問であります。今現在この2路線は市道認定されておりますので、新たに市道認定する必要はありません。そのかわり、区域が変わっておりますので、区域の変更という手続が必要となります。

次の、4点目の道路照明灯を今後どのように対応するかというご質問ですが、これまでの道路は狭隘で曲がりくねった道路でありましたので、各カーブのところには道路照明灯があったものと思われます。今回改良されまして、道路がかなり直線的になっておりますので、今までどおりの道路照明灯は要らないのではないかと考えております。ただし、今後道路が整備されまして必要な箇所が生じた場合には、これから設置も検討していきたいと考えております。

5点目の、公園の備品購入の内容ですが、今回の備品購入費を、予算が可決承認されました暁には、複合遊具として潮風公園、また、もともと公園にあったうんていを、遊具点検の結果、不適格ということで撤去いたしましたので、そのかわりとして、若潮台第1公園に撤去したうんていを設置したいと考えております。

また、前回の市長答弁で健康遊具についてどのように答弁したかという内容ですが、今手元にそのときの市長答弁書がございませんので、正確にはお答えできないかも知れませんが、今後整備する際には検討したい旨を答えたと思っております。その後、2回目以降のご質問で、子どももシニアも両方の世代が使用できるものを導入したいということでお答えしたのと同時に、これから新たにベンチ系を設置する場合には、ストレッチができるような、いわゆる背を伸ばしたり、腹筋ができたり、そのようなベンチを設置していきたいというふうに答えたと思っております。以上です。

○議長（岩瀬洋男君） ほかに質疑はありませんか。鈴木克己議員。

○6番（鈴木克己君） いろいろご質問させていただいていますが、答弁した順番からいきますと、まず、NHKのど自慢、これは課長の説明で内容はよくわかりました。NHKのほうから1,000席以上を求めてはきていないが、60周年の行事なので、そして、先ほど申し込みを聞くと、こんなに来ているのかと、実は驚きもあります。勝浦市の60周年事業でやるので、市長が言われる、いわゆるこの地域を核として、全体、夷隅地域等からも、恐らく多いのだらうと思いますが、基本は勝浦市の60周年記念事業で、勝浦市の人を中心になってこのイベントを盛り上げてもらいたいんですが、その辺は区分けしてもしようがないので、抽選で勝浦市を優先というわけにもいかないでしょうから、その辺はこれだけ来ている中でやるんだということでありまして、これはいた仕方ないかなと思いますが、私としましては、この200席がなくなっちゃうということは、カメラを設置するのにそんなに必要なのか、これは現地をNHKが見ての判断なのか、それとも、こちらの、向こうから言われた話で場所を確定したのか、その辺を再度お伺いします。どうしてもNHKが見て、逆に言ったら今年度は千葉県では勝浦しかないということなので、勝浦のPRも含めて盛り上げていく必要がありますが、その辺もう一度確認したいんです。

私も余りのど自慢のテレビは見てないんですけど、たまに見ると、固定カメラは3台も必要なかなと思ってはいますが、その辺について再度、カメラ設置のために、1階に3台、2階に1台という話でしたが、1階については、裏の会議室まで広くなっちゃうということで、そこに全部椅子を700並べるということなんでしょうか。2階の部分の高さがあるので、そこを広げていくと700ということで、そうすると逆にフラットになっちゃうので、舞台が1メートル高くなって、1階席は下から見上げる形になるのかな、2階席は上からということになるんですけども、もう少し詳しく聞きたいのは、会議室、大会議室までも広がるという設定になっていると思いますので、そこを使ってということの確認をいたしたいと思います。

あと、実際に出演希望で500組来ているということは、そこから250組は抽選でNHKが選ぶんでしょうけど、最低250組は必ず来る。250組でも250人ではないと思いますから、それだけでももう500人、600人の人が来るのだらうと思いますが、その辺はしっかり対応していただければということで、聞くところによると、市長も応募したという話を聞きましたけれども、ぜひ出られるといいかなと思います。そういうことで、わかりましたので、説明だけお願いします。

あと、プロジェクターをロビーに置いて、それを来た人が見るのかなという気もするんですけど、せっかく中でやっているのに、外にプロジェクターって、何かちょっとね、差があるのかなというふうな考えもありますので、なければいいのかなという気もしますが、ほかのところで行っている例もあると思いますので、その辺のところをわかればお話をいただきたいと思います。NHKのほうでも、プロジェクターについてはどういうふうな考えをしていたのかについてお伺いをしたいと思います。

次の興津集会所については、興津中学校ということですよ。興津中学校の1階を集会室、調理室、和室等に変えていく。今の建物は耐震のI s値が0.59、それが0.6以上なければならぬということだと、集会所なので不特定多数の方が集まる場所でもありますので、また、避難所にもなっていると思いますので、そういうことを含めて、耐震診断をやって、耐震工事今後やっていくのかについてと、あと、防火対応は、どの程度までの防火対応をするのか、スプ

リンクラーとか、そういうものも必要なかどうか、旅館、ホテルじゃないから要らないと思いますけど、どういう防火対応をする予定で設計するのかについてお伺いします。

次に、観光については、灯台のほうは、大変ですけど、事故がないように対応していただければと思います。

地域おこし協力隊ですけど、今年度から向こう3年ぐらいの予定になるかと思いますが、1人は朝市、1人は観光宣伝を含めてシティプロモーション活動ということで、本当に人選をしっかりと選ばないと、昨日話があったとおりになっていくと困りますので、その人たちは勝浦に定住してもらえるような人を人選していく必要があるのかなと思いますし、この先、基本的には3年でよろしいのか、3年間継続していくのか、1年単位でやっていくのかということになりますけど、少なからず、活性化のためには継続していくのが必要だと思いますが、その辺のお考えをもう一度お話しいただければと思います。

市民会議については未定ということですが、今後予定される勝浦の方向については、市長の考えでテーマを決めて、市民の意見を十分に反映した市政ができればということで、これは答弁は結構です。

道の駅の事業につきましては、2,485万1,000円。これは設計委託なので、2,000万円の設計委託というのは相当大的な事業費に対しての問題です。今回やるのは、建物、駐車場。以前、昨日もお話し出ていましたけど、全員説明会の中で説明された、青写真というか、かかれた絵がありました。基本的にはその部分全体を今回設計していくのか。駐車場も含めて、市長が言われている周辺の土地の利用等々含めて、あとは、道の駅に、直売所だけではなくて、ほかの附帯設備が入ってくるとは思います。その辺の検討も含めて平成29年度でやっていると思うんですが、それについては、業務委託料の算出をするには、ある程度その辺を市から指示していないとできないと思います。みんなコンサル丸投げでやっているとしたら、これはいかなものかだと思いますので、市のほうから、この委託料算出、これは恐らく業者がやっているんでしょうけど、その算出の根拠になるような設計の基本について、もう一度お話をいただければと思います。

マカジキのブランド化、話はよくわかりました。マグロ、先日の議会で請願が上がって、対応しました。実は、マグロは、あの後すごく釣れるんだそうです。釣ってはいけないものがかっちゃったというのがあるらしいです。今年はマグロは大漁の時期だけど、水揚げはできないので我慢しているという漁師の話がありましたが、とともに、カジキについては、今までも水揚げはあったんだけど、一定量が集まらないのでなかなか難しかったということですが、勝浦で水揚げされたマカジキは脂が乗っていて食味はすごくいいということでしたので、ちょっと聞いたんですけど、その対応をしているということですので、ぜひとも今度、市でも予算をつけて、もっと大々的に勝浦産のマカジキをキンメダイと一緒に売るPRをしていただければと思いますので、ぜひともここには予算をつけていくべきだということを私としては申し上げておきます。

次に市道ですけども、今回は交付金の算定から4,000万円という数字だと。全体では、4,000万円では、450メートルの300メートルなので、3分の2ですか、あと残り150メートルということだと、さらにまた2,000万円ぐらい、都合6,000万円、昨年3月の一般質問のときに伺ったときは6,900万円という概算でありましたが、これについて、その後、舗装は当時は4

センチだったのが、結局は5センチあったということですし、切り土なので路盤は大丈夫だろうということですが、それにしてお金が随分かかるんだなあというふうに思います。

あと、300メートルの中には、車道と歩道と、側溝も当然入るんだろうと思うんですが、雨水排水路については設計の中に盛り込んであったのか、0.75というのがそれですか。本来図面を出してもらいたいぐらいなんですけど、場合によっては予算委員会のほうに図面だけ後で要求して、議長よければ要求したいと思っています。その辺で、もう少し詳しい内容をお聞かせいただきたい。

これは、去年の3月、1年前に戻ると、私は、本来は事業者が道路をつくるべきだという主張をしました。でも、市長と執部側の答弁ではそれはできないということでありましたが、当時の説明では、あそこを開発したエジソンパワーと串浜企画の合同会社が林地開発許可を受けて、しかも、その許可を受けるに当たって、3者の協議書をつくっているんです。その協議書に基づいて道路の改良を行っているということで、全て、現状のところまでつくってもらったんだという回答が昨年ありましたが、つくってもらったので、その後は市がやりますよということなんでしょけれど、私としてはまだ納得はできていないんですけど、それはそれで1年経過している中で、現状は道路をちゃんとつくっていくということですが、順番として、雨水排水も、あれからもう事業者のほうでの事業所内排水はつくられましたので、現状、砂が流れる程度で、さほど問題ないので、人も余り歩かないし、4,000万円を先にそこにやらなくても私はいいのかなと、市がです。その前にやることがあるんじゃないかなというのは、荒川線にしても、先ほど沢山トンネルから火葬場、かつうら聖苑までの区間、それと、廻り山線にしてみれば、発電所内の舗装した直線区間から、清掃センターへの下りの坂の出っ張っている部分がいきなり狭くなって、非常に通行しづらい。事故も起こりそうなことも何度もあるらしいですが、私も毎日あそこを通っているんですが、また副市長に聞くと私は通っていないと言うかもしれないので聞きませんが、非常に狭くなっている部分があって、そこを私は先に道路改良したほうがいいんじゃないかと。どうせ2,000万円の交付金を要求するのであれば、これからやるんでしょから、その部分と、沢山トンネルのところに、あれは串浜企画の土地なのかもしれないけど、木が雪害で倒れたままになっているんです。そこになぜか勝浦警察署のキープアウトというか、テープがずうっと張ってあるだけけど、あそこ、何であれが張ってあるかご存じだったら答えてもらいたいんですけど、あの辺を、トンネルの入口あたりを先に整備した上で、改めてこの勝浦荒川線のところについての検討をしてみたほうが、通行の関係ではそのほうが正解ではないかと思いますが、今のやろうとしているところは、道路通れますし、5センチの舗装があるので、一部たわんでいますけど、当分の間はあのままでも私は差し支えないと思うし、その前にやるべきことをやったほうがいいのではないかと思いますので、その辺はもう一度考えを聞いておきたいし、ぜひともそのところを早目に、交付金があるうちに、逆に言えば、そのところの道路改良を行っていただきたい。

あと、認定道路、認定は要らないということですけど、中谷廻り山線のほうは、起点・終点の場所は、起点はどっちかわからないけど、国道のほう起点だとしたら、終点の位置は前とずれていますよね。起点・終点がずれなければ認定は要らないということですけど、終点のあの丁字路になっている部分は、以前の終点の部分とはずれているというふうな認識を持っているんですけど、地番がずれた場合は認定し直しではないでしょうか。それについて番地で確認

したいと思います。

照明は要らないというんですけど、もともとあった照明を、事業を行うために道路がつけかえになった。少なからず、あの通り、夜通ったことありますか。真つすぐだから要らないというのではなくて、道路照明として必要だと思います。そこは、先ほど答弁漏れになっていますが、私は業者につけさせることが必要ではないかということを行ったけど、お答えがありませんでしたので、改めてお聞きします。

それと、公園の遊具、これはさすがに答弁書をつくっただけあって、ほぼ合っています。市長答弁を読ませてもらうと、健康遊具の設置についてであります。子どもも大人も楽しめ、また健康寿命の延伸に資するような遊具を、今後設置する際には検討してまいりたい。今後設置する際に、今回、今後設置する際なので、どんな検討をされたのか、そして今回、潮風公園と若潮第1公園ということですが、ここに設置する遊具を検討するに当たって、私の言ったのは市民の方からの要望に対して質問したのでありまして、必要であるということで、今回の潮風公園には総合的な遊具ということですが、どんなものを配置するのか。市民からの要望があった遊具、これは健康遊具でありますけど、それについて、答弁しているのは、今後設置する際には検討しますと市長が言っていますので、この健康遊具については、どのような検討をされたのかお伺いします。以上です。

○議長（岩瀬洋男君） 質疑の途中でありますけれども、11時15分まで休憩いたします。

午前11時04分 休憩

午前11時15分 開議

○議長（岩瀬洋男君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

答弁を求めます。吉清社会教育課長。

○社会教育課長（吉清佳明君） お答えいたします。NHKのどのど自慢の関係であります。客席の関係でありますけれども、カメラ等の設置によって約200席減る。また、パイプ椅子で950席、いずれもNHKのほうで、決定前にも何度も現地にきていろいろと現場の状況を見ている。キュステの職員とともにいろいろチェックをした上での結果であります。

200席について、先ほど申し上げましたとおり、前3列を地下に収納する、それだけでもう100席減ってしまいます。それと、2階席の脇のバルコニー席の、あそこは両側で100席ぐらい入るんですけども、NHKとの話の中でそのステージ側については座らせないということになっていまして、そこだけでも50席ぐらいは減ってしまう。そのほかに、カメラの設置部分、またその陰の部分、音響の調整の部分、その辺もろもろ合わせて200席ということであります。

それと、1階のパイプ椅子の関係でありますけれども、1階の通常の客席については全て地下に収納して、大会議室から全てパイプ椅子にするということになります。

それと、プロジェクターの関係ですけれども、これもNHK側からは、ほかの地域でも全てやっていただいておりますと、予選会については、そういう入り切れない人の対応については地元市町村でやっていただいておりますので、それをやらないからといって開催しないというわけではないですけども、ぜひお願いをしますというふうなことを言われた結果であります。

次に、興津集会所の関係ですけれども、耐火の工事の内容ですけれども、具体的には、排煙設備の設置であるとか、非常用の照明、また、通路、天井、部屋の壁等について、難燃材、燃

えにくい材質に変える、また防火シャッター、その辺の工事を予定をしております。

耐震の工事の関係については、1階、2階、それぞれ2カ所ずつ耐震ブレースを設置するようなことになるであろうということで、改修工事とあわせてその耐震の工事も実施をしていく予定であります。以上でございます。

○議長（岩瀬洋男君） 次に、高橋観光商工課長。

○観光商工課長（高橋吉造君） お答えいたします。私からは地域おこし協力隊の、定住してもらえようような人材の募集をというふうな形でのご質問にお答えいたします。まず、地域おこし協力隊につきましては、簡単に言うと都会から地方へと移住・定住をしてもらうような方をピックアップして、それを応援しようというふうな制度でございますので、まず募集の要件といたしまして、やはり勝浦市に住民票を移動してもらうこと、さらに、この地域活性化に意欲があり、本事業終了後も引き続き勝浦市に定住する意思のある者を条件に募集をいたします。任期につきましては、基本的に1年契約で、2回まで更新が可能ということで、最長3年間という形にしたいという形で考えております。

それで、移住・定住について、3年過ぎた後も定着を図るために、先ほど申しました朝市の関連やシティプロモーション、フィルムコミッション、そのような活動を通して地域に溶け込んでもらい、いわゆる朝市とかシティプロモーション、フィルムコミッションを通じた仕事を見つけて定着できるような形で市も支援してまいりたいと考えております。以上でございます。

○議長（岩瀬洋男君） 次に、軽込企画課長。

○企画課長（軽込一浩君） お答えいたします。私からは、73ページ、道の駅整備事業の予算額の算定根拠でございますけれども、現在、今年度実施しております基本計画策定におきまして、まず、市内業者ですとか民間事業者への意向調査、アンケート調査を実施してございまして、それらの結果をも踏まえまして、導入機能の整理、規模の検討、あるいは施設の配置、イメージ、これらが上がってくるかと思われまして、それらを大方推察しまして、整備候補地の1.6ヘクタールをフルに活用しての施設整備、これをもとに来年度実施計画、実施設計を進めていくという内容での額となっております。なお、金額には土地収用事業認定申請の支援などのコンサルタント業務を含めた金額となっております。以上でございます。

○議長（岩瀬洋男君） 次に、鈴木都市建設課長。

○都市建設課長（鈴木克己君） お答えいたします。まずは、1点目の勝浦荒川線につきまして、側溝の有無ですが、側溝は、現在のところ、両側につける予定でおります。

また、ほかに、ここよりも先に優先すべきものがあるのではないかとご質問ですが、今現在中途になっております改良を最後までやらないと道路は傷んでしまいますので、いつまでもあの状態ではないものと思っておりますので、まず途中になっているところを完全なる整備を行いたいと思っております。

また、沢山トンネル付近の倒木と、あと、勝浦警察署のテープの関係であります。倒木に関しましては、道路に倒れてくる危険性のあるものについては、土地所有者に連絡をして、危険のないような措置を求めています。また、勝浦警察署のテープについては存じ上げておりません。

次の、中谷廻り山線の認定に関して、終点の地番がずれているのではないかとご質問ありますが、これまでの中谷廻り山線の終点は串浜字一ノ廻り山1936番1という、これは大き

な山林だったんですが、これに道路がついていたわけですけども、今回その終点部分が若干荒川寄りに変わったというふうな認識はしておりますが、今までの道路であるところについているのか、また、その今までの道路と今回改良された道路の間に別の地番が入っているのかは今現在不明でありますので、もし地番がずれているようであれば、地番の修正が要るものと思います。ただ、起終点は重要な変更であるという概念でおりますが、これが若干ずれたのが軽微な変更に当たるのかどうかは、今後県と協議してまいりたいと思います。

次に、道路照明灯のところ、真っすぐであれば照明灯は要らないということで極端に言ったものではありません。必要があれば設置は考えていきたいと答弁させていただいたんですが、これを業者にやらせるかどうかというものは、今現在ではわからないので、業者に求める考えはありません。今までの道路にあったところで、今回改良されても変わらないのであれば、そこにつけてもらうのは、これは当然だなと思います。ただ、今までと全く線形が変わって、カーブだったから道路照明灯があったところに、今回直線になったので道路照明灯が仮に要らなくなったものであれば、それをあえて業者に負担させるつもりはありません。しかしながら、最初の質問でお答えしたとおり、必要に応じて配慮していきたいと考えております。

次の、遊具の内容であります。まず、若潮台のほうの公園のうんていは、これはうんていがもともとあったものであり、そのまま更新の意味でつけるものであります。また、潮風公園の複合遊具につきましては、バランス遊具的なものと、平行に動いていく、腕力、脚力、背筋等を同時に鍛えていける遊具、それと、最後に、ボルダリング的に、石というか、突起が板に埋まっています、それを上がっていく、それが4種類の遊具が合わさったものであります。

この検討であります。若潮台のほうのうんていにつきましては、これはもともとぶら下がれば背筋が伸びるストレッチ効果があるし、また、ぶら下がるだけで握力や腕力が鍛えられ、さらに、足を後ろのほうに曲げれば背筋や僧帽筋、大臀筋、そういうものを同時に鍛えられ、前のほうに曲げれば腹直筋、大腿筋も同時に鍛えられる。これは当然、シニアであっても、子どもであっても同じ効果が得られますので、そういう検討をしたものであります。この潮風公園の複合遊具につきましては、これは子ども向けであります。潮風公園そのものが、お母さんがお子さんを連れてきて、小さいお子さんから中学生ぐらいの方までよく遊んでいる公園です。したがって、ここにシニア遊具を混在させると危険が伴うおそれがあることから、ここは子ども向けの遊具を設置したものであります。以上です。

○議長（岩瀬洋男君） ほかに質疑はありませんか。鈴木克己議員。

○6番（鈴木克己君） のど自慢のほうは、60周年記念という大きなイベントに対しての対応でありますので、まずその成功を、もちろん成功するでしょうけど、大きな目玉事業ということで、期待をしたいと思います。後から大目玉がないような運営をしていただければと考えます。

興津の集会所ですが、耐震もやるということなので、これから計画してやるんでしょうけど、予定として、来年度に設計をやって、平成31年に工事に入るのかなという部分になるので、平成32年から施設を使うということなのかどうかの確認だけをさせていただきます。

道の駅ですけど、やり方が何かおかしいなという、なぜ何かおかしいかなというのは、平成29年度でやっている事業がまだ結果が出てこない中で、今度は平成30年度の設計を行うというところが、どうも整合性がないんですね。今回も2,400万円という設計委託料を計上していますが、平成29年度では基本計画と事業着手検討、これが結果としてあらわれない限りは、こ

の設計業務委託について、私は絵がかけないんじゃないかなと考えるんですけど、これはほぼコンサル委託でやっちゃっているということなのですか。市が実施するものについて助言をしているという部分が見えないんですけど、その辺はどうかについて伺います。

3回目なので簡単で終わりにしますけど、地域おこし協力隊、向こう最長3年。3年後も勝浦に住んでもらえるような人材をぜひ選任していただいて、同じ轍は二度踏まないという覚悟でお願いしたいと思います。

あと、都市建の道路ですけど、今また出てきたのが、前回4センチのアスファルトの舗装をしてもらってあってという話であったのが、5センチだったということで、最低5センチあれば市道としての構造はいいんだろうと思いますので、この路面については今回はさわらないということなんでしょうか。

それと、道路が傷んでくる可能性があるからこっちを先にやるということですけど、5センチあれば、そう簡単には傷まないと思うんですが、よほど工事車両の大型が入らない限りは。ですから、私が言うのは、そこにつく道路の、危険箇所は相当あるわけですから、その危険回避を先にやったほうがいいんじゃないかという提案ですが、それについては、都市建設課長は絶対に曲げない人だから、市長なり副市長に、その手法、今回、太陽光発電所の中の道路については市長が言ったとおりつくってもらったんだと、その後はやるんだということの予算計上ですけど、勝浦市の道路の管理として、やはり危険箇所、あれをつくったために余計危険になってしまった場所がありますので、そこを先に改修した上でこの道路改良に臨んでもらいたいんですが、その辺の考えをぜひ伺います。今あるところは3年、4年先延ばししても、私はそんなに傷まないと思います。

照明については、必要があればということで、夜通ってみてください、必要があると思います。ですから、そこについては照明は必要だと私は考えます。あの辺、真っ暗になっていますので、しかも、夜歩く方も中にはいますから、その辺で、やはり道路の照明はしっかり管理する側でつくっておいてもらいたい。

あと、遊具については、大人用の健康遊具を検討しますよとされているんです。けど今回は、うんていは今あだこうだ言っていましたけど、ほかの複合施設は子ども向けだと。このつける場所が潮風公園ですので、周辺に住んでいる方からこの要望があったんです。その要望を酌んでやって、どうせつけるなら、最低1個ぐらい大人用の健康遊具もつけてあげれば、これは市民のことを思っているということになるのかなと思いますので、その検討について、市長、副市長、どちらでも結構です、再検討するように私はお願いしたいんですが、お答えをいただきたいと思います。以上です。

○議長（岩瀬洋男君） 答弁を求めます。吉清社会教育課長。

○社会教育課長（吉清佳明君） お答えいたします。興津集会所の今回の事業については、3年間の計画であります。平成30年度に耐震補強と改修工事の設計業務、平成31年度に実際の工事、それと現在の興津駅前の集会所の解体工事の設計業務、それと平成32年度に駅前の興津集会所の解体工事、隣接する旧農協の部分もそうですけれども、その解体工事の予定です。したがって、平成31年度工事が終わって引っ越しをして、平成32年度から今の旧興津中学校の校舎で集会所が開館できるというふうな計画であります。以上です。

○議長（岩瀬洋男君） 次に、軽込企画課長。

○企画課長（軽込一浩君） お答えいたします。道の駅の整備事業につきましては、平成27年に基本構想ということで取りまとめをさせていただきました。現在では、これに基づきまして基本計画といたしまして、先ほど申しました市民の意向調査ですとか、その辺をいたしまして、導入機能、規模、これらを検討しておるところでございます。この道の駅につきましては、総野地区を小さな拠点ということでも取り組んでまいりたいと思いますので、そこにつきまして市の意向が十分に含まれているかと考えております。以上でございます。

○議長（岩瀬洋男君） 次に、鈴木都市建設課長。

○都市建設課長（鈴木克己君） お答えいたします。まず1点目の路面をさわるか、さわらないかでございますが、先ほど答弁したとおり、路盤は非常にいい状態が多い、舗装も5センチで打たれているということで、当初見ていた全部やり直しかなというようなものではないということの報告は受けておりますが、全ての路面をさわらないかというのと、今、業務委託中でありますので、詳細はわかりません。

それと、道路に傷みがくるといのは、これは路面だけを指しているものではなく、今路肩部分になっているところが、雨が降るたびに洗われてしまいますので、いずれは舗装面が割れていく可能性があるということの意味したものであります。

また、道路の管理上、危険なほうを先にやるべきだろうというご質問であります。まさにそのとおりであります。危険な箇所は危険がないようにすべきものであり、危険な箇所が直ちに直せないのであれば、注意喚起をしていくべきと私は思っております。今回の改良の中でも、道路が急に狭くなるという案内標識、道路標識を設置する予定であります。

あと、道路照明は必要ということではありますが、そもそも道路照明灯をどこにつけるかというのは、交差点部分であったり、コーナーのきつところであったり、橋梁のところであったり、そういうところに道路照明灯は設置していくものであります。単に暗いから明るくするというのであれば、また散歩している方がいるということであれば、これは防犯灯の範疇かなと考えております。

また、遊具に関しまして、潮風公園にシニア向けの健康遊具の要望があったということでしたが、当課のほうにはそういう要望がなかったのも、議員のほうにあったものと思われませんが、以前はミレーニアのほうの久保山公園だったというふうにお伺いしていたので、潮風公園にそのような要望があるのは、わかりませんでした。先ほど申し上げたとおり、潮風公園も広大な公園ではございませんので、あそこは多くの子どもたちが遊んでいますので、シニア向けの遊具との混在はスペース的に困難ではないかと思いますが、あくまでも強い要望があったのであれば、またその要望が大勢の方から出されているのであれば、今後検討していきたいと思っております。以上です。

○議長（岩瀬洋男君） 次に、関副市長。

○副市長（関 重夫君） それでは、私からお答えをさせていただきます。先ほど都市建設課長からお答えいたしましたけれども、道路の管理に関することで、当然、危険箇所は最優先で処理しなければいけないと思っております。今回の予算計上につきましては、土木の専門職が十分精査をした上での予算計上ですので、ご理解をいただきたいと思っております。

健康遊具ですけれども、一番心配なのは、子どもの遊具と大人が使う健康遊具が混在していて、事故が一番心配です。大きな公園があれば分けもできますけれども、今の勝浦市の現状

の中で、全く区別できる公園があるかとなると、非常に難しい。ほとんどが子どもさんが使われている公園ですので、使い方によっては、先ほど都市建設課長が答弁いたしましたけれども、使い方によっては筋力アップ、背筋アップを十分図れる遊具でございますので、当面はこの遊具で対応していただきたいと思います。将来的に、先ほど言いましたように、かなりの要望があれば、その設置も十分検討はしたいと思っております。以上です。

○議長（岩瀬洋男君） ほかに質疑はありませんか。土屋元議員。

○14番（土屋 元君） 65ページから5点ほど質問をさせていただきます。65ページの市制施行60周年記念事業についてですが、キュステをつくるときの、NHKのだ自慢をと、市長の悲願でありました、それが実現していいなというような感じでおります。その前に、この市制60周年記念事業をするときに、たしか市民に、60周年記念事業の提案をしてくださいという、ホームページとか広報でお知らせ、周知したと思っておりますが、それについて、これからの勝浦市の行政運営をするためには、市民との協働時代を特に発揮するためにそういう提案をしたと思うんですが、どのような応募があったり、相談があったのか、まず教えていただきたいのが1点です。

2点目は、73ページの道の駅の整備事業です。これは昨日も今日も前段者等々いろいろ質問が出ていますが、私も市民の代表として、道の駅構想については、特に市長が力を入れているメイン事業でありますし、重要事業でありますから、市民からどうなっているのと聞かれることがすごくあります。その中で、今、基本計画と事業の手法について計画を練っているところだという話で、そうなのということでもあります。そして、市民の代表として、その結果が出ないうちに新予算を提案されても、正直言って、審議するに材料がない。基本計画はどのようなもので、事業手法はどのようなのか、そういうような流れの中で、前段者あるいは同僚議員が、例えば2月いっぱいまでに成果がわかって、私たちに提示されて、検討する期間があって、そして今度新しい実施設計をするための予算が上がってくるのであれば判断もしやすいですけど、全く何もない状態で実施設計案だけ認めてくださいというような、白紙委任状じゃないですけど、そういうような状況に追い込まれてしまっているというのは、私たちが市民にそういうような状況でも承認したよって、おかしいんじゃないのって言われると思います。基本設計、基本計画はこうで、手法もこうだというのがわかって、ああ、いいだろうということで、今度の実施設計の案を認めたということにつながるので、その辺について、今後予算委員会もあると思いますが、二十何日までかかってしまうというのは、全くわからない状況の中で予算委員会を開くということに対して、なぜそうなっちゃったんだということに対してもう一度答弁をいただきたい。

3点目は、まちづくり活動推進事業、73ページでございます。特に勝浦市住民主導型地域づくり推進支援事業補助金400万円、平成29年度からの継続見込みの3団体を含んで4団体に増やすという予算があります。このそれぞれの地域づくり支援事業の、定義というんですか、これについて、地域の伝統とか、何が一番地域の絆を高めるための必要な事業かというのは、それぞれの地域によって違います。それについてバックアップする、あるいはそういうものを強調するということに対して、それぞれの地域の特徴がありますから、含めると、その辺について、定義が、宗教的だとか、やれ祭りはだめだとか、よくわからないけど、ただコミュニティーとしてのみこしとか屋台は認められているので、そういうものを使ったりして地域の誇りを高め

ようという動きもあると聞いておりますが、それについての定義をもう一度確認させていただきたいと思います。

3点目は、157ページ、地域おこし協力隊、これは特に私も議会で、プロフェッショナル、外部の人材登用、それから地域おこし協力隊のマンパワーの活用という中で、今回2名ほど上がってきています。先ほどの説明であると、朝市活性化事業で、朝市に店を出してもらいながらいろいろ活性化、はてなと思うようなことがあります。その辺についてもう少し具体的に、その方が来たら必ず朝市に出て、午後から違う活動をするのかわかりませんが、そういう中での、今回募集要項はどうなるのか、具体的に教えていただきたいと思います。

最後に、157ページ、かつうら観光ぷらっとフォーム整備事業、これについては外部人材雇用が1,000万円上がっています。前回、途中退職ということがあって、非常に残念です。それだけのお金を投資して、幾ら国からお金をもらっていると言いながらも、あれは何だったんだ。私がおもうのは、採用決定方法に問題があるのではないかと思うんです。というのは、うちの会派で、一昨年、日南市の外部人材登用で、月90万円掛ける4年間で空き店舗対策事業のプロフェッショナルを募集しました。そのときは公開プロポーザルで、市民に公開して、そして三百三十何人の人が応募に来て、書類選考をやった後に、一人一人、限られた人を、市民をバックにして、審査して採用した。何が一番よかったかという、市民を巻き込んだものですから、その方が地域に溶け込みやすかった。地域の皆さんが応援してくれたということが彼の成功のもとだということを聞いています。そういうことで、そういう人材を雇用したときに、そういう人が市民に溶け込みやすい環境をつくるということの中で、何か知らないけど決まっちゃったというよりも、市民が、そういう人が来て勝浦市を活性化してもらえるんだよということを、仕掛けが大事だと思うんです。そういうことを含めて、今後の外部人材を採用するとき、あるいは地域おこし協力隊を採用するとき、市民に公開できるようなスタイルでやるかどうか、それを含めてお聞きしたいと思います。以上です。

○議長（岩瀬洋男君） 答弁を求めます。酒井総務課長。

○総務課長（酒井清彦君） お答えいたします。今回、市制60周年記念事業の関係で、アイデア募集ということで、広く市民に募集をしていきたいということを答弁で申し上げたところであります。そんな中で、広報かつうら、ホームページを通して、市民の方に募集をいたしましたところ、件数的には7件のアイデア募集がございました。申し上げますと、ダブっているのが大相撲の地方巡業誘致が、2名というか、何名かの方からありまして、あとは、記念作文コンクールをつくってはどうかというご意見、あと、勝浦のPRも兼ねたテレビ番組を活用した婚活イベントをやってはどうかというのが1件、あと、千葉ロッテマリーンズ戦の観戦で市民を招待やチケットの優待をしたらどうかというご意見、あと、勝浦カッピーのTシャツのデザインとか、ラインのスタンプ等の作成、合計7件のご意見がございました。以上でございます。

○議長（岩瀬洋男君） 次に、軽込企画課長。

○企画課長（軽込一浩君） お答えいたします。まず道の駅の関係でございますけれども、現在、事業手法の調査検討と基本計画の策定ということで進めさせていただいております。基本計画が今月下旬に取りまとめというスケジュールであります。その結果で、庁内的にも、現在の情勢ですとか財政事情を十分に頭に入れて、今後推進してまいりたいと思います。今のところ、当課の考えといたしましては、新年度当初に議員の皆様にご説明なりご報告ができればと考え

てございます。道の駅に関しましては以上でございます。

続きまして、まちづくり推進事業の関係でございますけれども、これは平成27年度から開始の事業でございます、その中で、当初、鶴原区と松野、Z P倶楽部さんですか、あと、昨年度から大森区、この3区手を挙げていただいております、それぞれ素晴らしい成果を上げていただいております。内容につきましては、住民の方の協働によるまちづくりということで推進している事業でございますので、住民の方みずから地元のまちづくりに取り組んでいただけるというような趣旨で、1団体100万円限度ですけど、こういう助成をしながら、まちづくりに取り組んでいただきたいと思いますと考えております。これに関しては以上でございます。

○議長（岩瀬洋男君） 次に、高橋観光商工課長。

○観光商工課長（高橋吉造君） お答えいたします。まず1点目の地域おこし協力隊についてでございますが、先ほどの質問のお答えで、地域おこし協力隊のやってもらう仕事として、朝市の活性化、さらにシティプロモーション、フィルムコミッションに関する事とお答えさせていただきましたが、その中で、朝市に具体的に出店していただく、朝市の活性化に向けては、出店者の拡大がまずは喫緊の課題だと私は考えております。なので、朝市に出店していただくことによって、まず朝市を盛り上げていただきたいと思いますと考えております。その方がさらに突っ込んで朝市の運営にもかかわってもらえるような人材であれば、そういうふうに育ってくれば、さらにより深く朝市の活性化につなげていただきたいと思いますと考えております。要は、それを定住する糧としていただきたいと思いますと考えております。フィルムコミッションについても同様でございます、勝浦には勝浦ロケーションサービスというフィルムコミッションとかを通してまちおこしをする団体がございますが、そういう方たちのやる仕事に深くかかわっていただいて、いずれはそれをしょっていってもらえるような人材に育ってほしいと期待しております。

2点目の外部人材についてですけれども、これは地域おこし協力隊にも言えることですが、外から人を引っ張ってくるということに関して、今現在難しい部分もあると考えております。さらにそれを今後どういうふうにしていくかでございますけれども、受け入れ側、地域の方々とか、市民の方々、観光の方々、関係者の方々に受け入れられやすい人材を採用していきたい。その方法につきましては、また関係各方面の方々と協議をして、採用のやり方については考えていきたいと思っておりますが、いずれにしても、採用したい方の人となり、より深く理解できるような、例えば面接の回数を増やすなり、そういうことで相互の理解を深めた上で、次の採用につきまして、できるだけ勝浦市に貢献してもらえよう方を選んでいきたいと考えております。以上でございます。

○議長（岩瀬洋男君） ほかに質疑はありませんか。土屋元議員。

○14番（土屋 元君） 市政60周年記念事業の件についてですが、応募が7件ほどありましたということはよくわかりました。そういうのを含めて、本来、市民会議は、去年は勝浦駅前ロータリーを含めてやったということもありますが、市長は国際交流についても節目の年、私も、市制60周年を国際交流の開業年という形にしていろいろ検討したらどうかという提案もしましたが、国際交流元年にしたいからということでも市民会議を開いたりして、ただ単にアイデアを市民からもらうのではなくて、市民会議という組織があるんですから、そういう諮問機関を使って、市制60周年記念をよりよいものにするためにすることが必要だったんじゃないかなということはある。ただ、この4月から始まって、まだまだ途中で、市制60周年は1年間あるわけ

ですから、今決まった60周年記念事業のほかにも、随時、時代の変化を捉えて、市民ニーズも踏まえて、補正予算でも何でも構いませんので、提案していただいて、市民に市制60周年を満足してもらおう。私も、墨名の交差点で時々チェックして、60ということで印をつけたら、60って何ですかと聞かれる人が圧倒的に多かった。3月3日になって初めて60の意味を、市制60周年を迎えるんですよ、昭和33年10月に市制千葉県下18番目の市として誕生して、ああ、そうですか、こちらの左の8は何ですかと言うから、それは富士山ですと、そんなこともあったんですけど、そういうことを含めて、国際武道大学という国際をつけた大学が唯一あるわけですから、国際交流を市長が提案したということ踏まえて、そういうテーマをもとにして、市民会議も提案して、市民に国際交流ってどこなんだということを含めたり、交流の、おもてなしということの中で、市民、商団体がおもてなしのレベルを上げるという形も含めた記念事業の検討も、まだ間に合うと思いますので、ぜひしていただきたい。これは要望しておきます。

それから、道の駅整備事業についてですが、基本的には成果が来てから私たちに説明があると言うから、でも、そういうことを言っても、新年度予算は進めなければいけないので、そういう中で非常に矛盾を感じて、成果の締め切りをそういうふうにすること自身が、私たち、最初に質問して、この基本計画はいつ完成しますかなんてやりながら、昨年の予算のときにやればよかったのかわからないですけど、でも基本的には、よく行政評価制度というので、成果があって初めて新年度予算に反映するという、そういう仕組みが今当たり前になっていますから、そういう形の中で、私たちが判断しやすいということは、裏を返せば市民が理解しやすい、そういう流れを今後ともやっていただきたいし、また、今回間に合わないとなれば、私たちに早急に説明をもう一回設けて、私たちがまた予算を通しても何でも、それに対して説明できるような機会をぜひ早くつくっていただきたいこと、これも要望しておきます。

それから、まちづくり活動推進事業であります、ある地域には、みこしを地域の絆にして、これが一番の誇りだと言いながら、勝浦市のために江戸まで行ってPRしてくれて、優勝して、2回行ったけど、3回目は来ないから、向こうから役員が来て、ぜひ来年来てくださいと。これが宗教的であるから無理というのは、では、日本のふるさと祭りを東京ドームでやっている人は、あれはみんな宗教行事ですかということになっちゃいます。違いますよ。地域の誇りおこしです。そういうことを含めて先ほど定義を聞いたんですが、はっきりしなかったことを含めて、十分検討して、地域が本当に地域住民主導型の提案をできるような環境整備、あるいはそういうことも含めてこれを検討すべきだと思いますが、これについての検討をお願いします。

それから、地域おこし協力隊についてですが、あるいは外部人材、一括ですけど、市民に公開して、選定を透明化しますかということを私は聞いているので、それについて答えがなかった。市民に対して透明化が大原則で、この議会だって透明性、インターネットをやったり、傍聴に来たっていいようになっているわけですから、特に外部人材採用については、途中で退職するような残念なことが起きないように中で、市民にも興味を持ってもらうというので、公開が必要だと私は考えます。それについての答弁をお願いいたします。以上です。

○議長（岩瀬洋男君） 午後1時まで休憩いたします。

午前11時50分 休憩

午後 1時00分 開議

○議長（岩瀬洋男君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

答弁を求めます。高橋観光商工課長。

○観光商工課長（高橋吉造君） お答えいたします。先ほどは済みません。公開のことについて漏れてしまったことにつきまして、おわび申し上げます。改めてお答えさせていただきますが、質問の中で議員からお話があった日南市の選考方法、そういう先例も参考にしながら、外部人材の選考につきましては、関係機関に協議して、また、よりよい方法を実践していきたいと考えております。以上でございます。

○議長（岩瀬洋男君） ほかに質疑はありませんか。土屋元議員。

○14番（土屋 元君） それでは、今の選考方法についても、ぜひ市民を巻き込んだ中で、透明感がある選考方法過程と、その方が人材として採用されたら、市民がバックアップして応援する姿勢、そのために人材活用するわけですから、ぜひ透明感があって、市民が傍聴できて、その中で選ばれることが今後のまちづくりについても市民の協力を得られるのではないかと思いますので、それを強く希望いたします。

まちづくり活動推進事業で、例の地域コミュニティー事業ですか、それぞれの地域の誇り、伝統がありますので、その伝統を、市民の自主的な活動の中で、宗教行事でない、だから東京ドームで行われている日本ふるさと祭りは宗教祭典行事ではなくて、日本のふるさと祭典事業という、まさに地域のコミュニティーの結集した大きなフェスティバルなので、そういうところにもやがてステップアップできるような地域にしたいということであれば、それに対して勝浦市をPRする、それが将来で言えば、観光協会を通してやっています合同祭典事業補助金事業等々含めて、地域が交流人口が増えるような、そういう解釈の中で、地域それぞれの事情に合った地域提案型事業をぜひ採択していただきたいということを含めて検討していただきたいことを要望して、終わります。以上です。

○議長（岩瀬洋男君） ほかに質疑はありませんか。藤本治議員。

○1番（藤本 治君） まず、70ページの公共施設等総合管理計画策定事業について、これは建築系公共施設の再配置方針及び集会施設の個別施設計画を策定すると補足説明のほうには説明されているんですが、この内容、対象はどういう施設で、どういう計画を策定するものか、お尋ねします。

続いて、73ページ、道の駅の整備事業についてですが、これも私、先ほどの質疑を聞いていても、基本計画、事業手法の検討がまとまるのはこれからだと、にもかかわらず新年度の基本計画策定の業務委託費をお認めいただきたいという提案ですけれども、やはりつながらないですね。何々ありきということで事が進んでいるのであればこういうことも起こり得るかもしれませんが、まだこれからまとまる。その先について、まだまとまるのはこれからなんだけれども、事業費だけは決めていただきたいという、こういう提案のされ方というのは、先ほどの前段者、前々段者が取り上げられたとおり、やはりおかしいやり方ではないかと思っておりますので、こういうやり方になったことについての弁明はいただく必要があるのではないかと思います。お尋ねします。

76ページですが、地域公共交通維持改善事業の中で、デマンド型乗合タクシー利用者へのアンケート料金後納郵便料というのが計上されているんですけれども、この調査はどういう調査で、この新年度で、上野地区だけに限らず、公共交通から阻害されている方々への利用者を拡

大することに伴う調査を新年度の調査対象として考えておられると思うんですけども、その調査の仕方についてはどのように考えておられるのかお伺いしたい、これとの関連で。

120ページですけれども、生活保護費が計上されております。生活保護については、私は大変懸念を感じております。さかのぼって、過去5年にわたって、生活保護受給者がどういう推移をたどっているのか、世帯数と人数についてをまずお尋ねしたいのと、この間、介護保険課の介護保険料の境界層措置ということも議論させていただきましたけれども、いろいろな課、税務課もかかわっておられると思うんですが、いろいろな滞納があった際に、福祉課のほうにそれらの部署から照会があって、それぞれの生活困窮状態を聞き取ってこられたと思うんですけども、その中から生活保護の受給に結びついた方々が、最新年度でどの程度いらっしゃるのか、そのこともあわせてお答えいただきたいと思います。

次に、127ページの健康増進事業で歯周疾患検診というのが計上されております。この歯周疾患検診は数年前から実施していただいている事業ですが、なかなか受診が伸びない、実績が上がらないという経過をたどっていると思うんです。そういう点では、どういう受診を勧奨し、受診を引き上げていくための努力、特に40歳、50歳、60歳、70歳という10歳刻みで対象者がいらっしゃるわけですけれども、それぞれの対象者への個別のご案内がされているのかどうかも含めてお伺いいたします。

続いて、157ページの地域おこし協力隊についてですけれども、朝市の活性化ということでお1人確保したいということですが、朝市の活性化というのは非常に重要な課題だと思うんですが、そのことにかかわって、今後どう朝市を活性化していくかということについて、新しい年度の予算の中で、朝市の活性化はこのことに集約されているような予算立てのように思われるんですが、実際問題として、もっと内発的な、内なる力を引き出して、そしてこういう外部からの朝市への出店、そういうものが相まって朝市の活性化というのは図られていくべきものではないかと思うんですけども、朝市の活性化という大きなテーマを今後どう推進していこうとされておって、その中にこの地域おこし協力隊が位置づけられていくのではないかと、思うんですけども、その辺の大もとの朝市の活性化というのをどう進めていこうとされているのかお伺いしたいと思います。

最後に、174ページ以降、176ページまでにわたって、防災無線整備管理事業のさまざまな事業が展開されているんですけども、今、各家庭に置いてある戸別の防災無線の受信機が既に製造が中止されているということで、新規に求めようとした場合に手に入らないような状態になっているかと思うんです。そして、現に防災メールの受信ができない方もいらっしゃいます、そういうものが手に入るにはどうしたらいいかということをお尋ねされたわけですけれども、今のところは防災メールの受信、あるいは、これからスマートフォンで防災アプリを活用できる環境がないと、外の防災無線の拡声器から聞こえてくる情報しか得られない方が現にいらっしゃるという状況があるわけです。その点をどう対処しようとしているのか、お伺いしたいと思います。以上です。

○議長（岩瀬洋男君） 答弁を求めます。齋藤財政課長。

○財政課長（齋藤恒夫君） お答えいたします。公共施設等の管理計画の関係でございます。ご承知のとおり、平成28年度で公共施設の総合管理計画を策定させていただきました。その後、国では、それぞれの個別計画を平成32年度までに策定していただくという流れであります。

それで、来年度におきましては、再配置計画といたしまして、この公共施設の管理計画は全体像でありましたので、それぞれの施設について再配置、例えばこの施設をどうするのか、建築年度等を見て、ここはもう廃止していくのか、その辺の検討等をやる再配置計画、それと、もう一つは、来年度においては集会施設を対象といたしまして、個別計画、基本的な方針の検討や、長寿命化計画といたしまして、その施設の建築年度、また、あと何年これが使えるのか、その辺も専門家の意見を聞きながら実施していくということでございます。それによりまして、例えば廃止、除却等生じた場合は、そういう個別計画を策定していれば、有利な起債も活用できるということでございます。以上でございます。

○議長（岩瀬洋男君） 次に、軽込企画課長。

○企画課長（軽込一浩君） お答えいたします。1点目の道の駅の整備事業に関してでございますけれども、現在実施取りまとめをさせていただきます基本計画で出た結果を踏まえまして、財政状況を鑑みまして市として出した方針に基づきまして、早目に議会の皆様にご報告を申し上げたいと考えております。

続きまして、デマンドに関します調査の関係でございますけれども、対象地区を、現在、川津地区と総野地区の一部、それらにアンケートを実施したいと考えてございます。両地域の世帯数はおよそ1,650世帯、うち65歳以上はおよそ1,400人と見込んでおりまして、小湊バスのバス停から300メートル以遠としますと、対象者は1,000人と見込んでございます。アンケートの内容といたしましては、現在、買い物をする際の手段、頻度、問題点、また、希望する買い物支援サービス、移動に関する問題点、新たな移動支援対策の需要、これらを調査してまいりたいと考えております。以上でございます。

○議長（岩瀬洋男君） 次に、関福祉課長。

○福祉課長（関 富夫君） お答えいたします。私からは、119ページの生活保護の関係についてお答えさせていただきます。2点ございまして、まず1点目から申し上げます。被生活保護者の世帯数と人員ということでございますけれども、平成25年から申し上げます。平成25年、世帯数178、人員228人です。平成26年、世帯数173、人員221人。平成27年、世帯数163、人員196人。平成28年、世帯数147、人員172人でございます。平成29年、世帯数135、人員162人でございます。平成25年から平成29年につきましては、各年4月1日現在の数値でございます。あと、今年になりまして、2月27日現在でございますけれども、世帯数が132、人員が154人でございます。

次に、2点目の、保険料免除に相当するような方の生活困窮者が他課から福祉課に相談に来られていますかというご質問でございますけれども、ご相談の具体的な内容をまとめたものがございますので、申し上げます。まず、相談の内容といたしまして、預金等で生活をしてきましたけれども、預貯金がわずかになったことによる相談、高齢の両親や疾病・障害のある兄弟姉妹について扶養義務者からの相談、疾病による入院等により収入が減少したことによる相談、疾病治療に係る入院費用等の支払い困難による相談、稼働年齢層の子どもを持つ親から子どもが仕事につかないという相談、障害年給を受給していたが更新手続きができず収入が途絶えたとの相談というものが主な内容になっておりまして、ご質問の生活困窮者が他課から流れてきて生活保護になったかどうかというものについては、確認は実際とれないところでございます。以上です。

○議長（岩瀬洋男君） 次に、大森介護健康課長。

○介護健康課長（大森基彦君） お答え申し上げます。私からは、127ページ、健康増進事業の中の歯周疾患検診業務の関係についてお答え申し上げます。この歯周疾患のほうですが、どのように周知しているかですが、広報に掲載して周知しておるところでございます。ですので、個別通知はしておりません。その結果でございますが、年々減少傾向にあります。平成29年度におきましては受診者がいなかったという結果になりましたので、ここは周知方法につきましては対策を講じなければならないと考えておるところでございます。以上でございます。

○議長（岩瀬洋男君） 次に、高橋観光商工課長。

○観光商工課長（高橋吉造君） お答えいたします。私から、朝市の活性化をどう進めているのかというご質問にお答えさせていただきますが、今まで朝市を運営していたのは、朝市運営委員会という組織があるんですけども、その朝市運営委員会が、今までは地元区がそれを担っていたわけですが、この4月より、地元区を含めて、行政、商工会、その周辺関係者、観光協会も含めますけれども、そういう方々が委員になっての新しい朝市運営委員会、これはまだ正式に名前は決まっていないうんですけども、そういう形で運営の方法が変わる。それを機に、朝市の活性化につきまして改めて考えていきたいというふうに考えておるのですけれども、その中で、この平成30年度の予算に上げさせていただいております、例えば位置情報活用商圈調査、その中で朝市の現状を詳しくマーケティングをして、今の状況をつかむことによって、今後の方針をまた改めて考えていきたい。さらに、観光ふらっとフォーム整備事業の中でも朝市ブランド強化ということで予算を取らせていただいております。それにつきましても、そのマーケティング等の結果を踏まえて朝市の方向性を改めて考えた上でブランドの強化を図っていく、そういう形で朝市の活性化を進めていきたいと考えております。以上でございます。

○議長（岩瀬洋男君） 次に、酒井総務課長。

○総務課長（酒井清彦君） お答えいたします。戸別受信機に対して現在欲しいという方は、今、戸別受信機につきましては、メーカーではもうアナログ波が平成34年度の中旬くらいには電波の関係でなくなるということで、その受信機自体はもうございません。なおかつ、どの戸別受信機でも合うというのではなくて、やはりメーカーの波周に合ったもの、また仕様に合ったものでないと本市の防災無線戸別受信機には使用できないことから、現在は、欲しいという方があった場合には、既に市内の方で私はもう要りませんというのを引き取って、それをまたかわりに渡しているような現状でございます。また、それとあわせて、近隣の自治体で同じ業者の関係で無線機が、使えるんだけどもう不要ですよという自治体がありまして、今まで100台ぐらひは引き取って、それを勝浦市の需要者にお渡ししたところであります。

今後につきましては、今年度、防災アプリを導入しております。ですので、まず防災アプリ等も活用していただくということ、あと、これはあくまでもスマートフォン系ですけども、そうではなく、いわゆるガラケーと言われるものも、音声ではありませんけれども、文章等で文言等で配信できるようなものも備えておりますので、いずれにしても、これ一つということではなくて、外での無線、アプリでの受信、ガラケーでの受信、また戸別受信機での受信、もう一つ考えているのが、これはまだ確定というか、メーカーのほうでもこれから開発というような考えらしいですけども、いわゆる今のスマートフォン、うちのほうのアプリに対応できるような受信機、要はデジタル放送で受信できるような受信機もメーカーで開発しているとい

うことでございますので、今後、そういうこともあわせて充実していきたいと考えています。
以上でございます。

○議長（岩瀬洋男君） ほかに質疑はありませんか。藤本治議員。

○1番（藤本 治君） 公共施設の、70ページの調査対象ですけれども、いわゆる再配置方針を立てようとする施設については、こことここを検討しているという対象は決まっていないのでしょうか、それをお伺いしたかったんですけれども、対象はこれから検討されるのでしょうか、その辺をお伺いします。

それから、道の駅整備事業につきましては、順序というのか、今回の金額が妥当かどうかというのは、今後どうするかが一切決まっていないうわけですから、妥当かどうかは判断しようがない、提案されても。こういう提案の仕方というのはおかしいと思うんですけれども、その辺が十分ではなかったということが一言もなく、当たり前のように提案されているというのは本当に解せないなと思います。もっとこれは計画を、予算を提案する前に、今後の事業手法も含めて、これで行くということに基づいて、基本設計の計画の費用はこれこれこういうふうに設定したいという提案の順序だろうと思うんです。これについて、道筋が足りないのではないかと思いますけれども、その足りないという自覚はお認めにならないのでしょうか。

デマンドタクシーのアンケート調査は、1,000件の対象に、220通ぐらいは戻ってくるだろうという予算組みのようですけれども、送り先の選択の仕方について、どういう方々を、どのように選んで発送先を選定されるのかという点をお尋ねしたいと思います。

それから、生活保護費につきましてですが、減少が年々あるわけですけれども、滞納者がいて、今後の支払いについて滞納分の計画を立てて、そして滞納分の税なり料金なりを払っていくという約束をする中で、生活困窮のために生活保護を受けたいというケースもあると思うんですけれども、そういう相談が一件もなかったというお答えだとすると解せないので、改めて、滞納された方々が何人もいらっしゃるわけですけれども、生活相談に結びつけてほしいという相談は一切なかったんでしょうか。あった場合、どういう対応をされたかをぜひお聞きしたいということで質問をしております。

それから、歯周疾患検診の周知は広報だけということなので、これは近隣の市や町でも多くのところで実施しておりますので、ぜひ様子を聞いていただいて、40歳が最初のスタートなので、40歳の方だけでも個別の案内をして、今後は50歳のとき、60歳のときは広報を見ていただいて対応してくださいということで、40歳の誕生日を迎えた方だけにでもご案内するという方法もあるかと思っておりますので、近隣の市や町の取り組みも、ぜひお調べいただきたいと思っております。

朝市の活性化について、そういう方向で進めておられるということで、始まったばかりということなんでしょうけれども、そのことと、地域おこし協力隊として1人今回人材を確保して、その方に期待する役割、どういうことになるのかというのを、大方針との関係でお伺いしたいと思っております。

それから、防災無線の受信についてですけれども、多様な方法を考えておられるのはわかりましたけれども、全体として漏れがないようにするためには、現在の外のスピーカーの配置、90何カ所あると思うんですけれども、それだけで十分なのか、今後もっと増やす必要があるとお考えなのか、その根本的な対策はどこにお求めになるのか、今後のことについてですが、お伺いしたいと思っております。

○議長（岩瀬洋男君） 答弁を求めます。齋藤財政課長。

○財政課長（齋藤恒夫君） お答えいたします。再配置方針に対象施設ということでございますが、これについては今後この業務を実施していく中で決定していきたい、それで方針を出していきたいと考えております。以上でございます。

○議長（岩瀬洋男君） 次に、軽込企画課長。

○企画課長（軽込一浩君） お答えいたします。1点目の道の駅整備事業につきましては、事業の進め方ということでございますけれども、ご指摘いただきまして、必ずしも最適ではなかった部分もあろうかと思えます。

2点目の公共交通の調査についてでございますけれども、先ほども述べさせていただいたかと思うんですけれども、まず、対象者の洗い出しにつきましては、現在、公共交通の空白地域、川津ですとか総野地区の一部、これらを新年度早々抽出いたしまして、夏ごろに、それらの方にアンケートを実施したいと考えてございます。その結果を踏まえまして、年度後半に対策を練ってまいりたいと考えております。以上でございます。

○議長（岩瀬洋男君） 次に、関福祉課長。

○福祉課長（関 富夫君） お答えいたします。先ほど窓口での相談内容について申し上げましたのは平成29年度の主な相談内容でありましたけれども、これをまた平成28年度で見ましても、議員おっしゃるような形の相談というのは実際確認ができません。ただ、しかしながら、逆に、うちのほうの窓口にいっちゃって、それからまたほかの課に行つてそういう相談をされているという形のものはあるのかもしれない。以上です。

○議長（岩瀬洋男君） 次に高橋観光商工課長。

○観光商工課長（高橋吉造君） お答えいたします。地域おこし協力隊が朝市を活性化するのにどのようなことを期待するのかというご質問でございますけれども、まず、朝市の活性化に欠かさないのは、年々減少傾向にあります出店者数の維持、さらに拡大を図っていくことと捉えております。そのきっかけとなって地域おこし協力隊の方が出店をしていただく、また、そのお仲間の輪を広げていただいて出店の増加につなげていただきたい。さらに、議員が先ほど申しとおりましたとおり、内なる力を引き出す、そのきっかけにも地域おこし協力隊がなればというふうに期待しております。以上でございます。

○議長（岩瀬洋男君） 次に、酒井総務課長。

○総務課長（酒井清彦君） お答えいたします。今後の防災無線の将来的な考え方的なものですが、現在、勝浦市の人口が年々減少しているというのは否めない状況ではございます。そのような中で、防災無線が設置してある近隣の住民もいなくなってくる状況も、現在多少なりとも進行しつつあります。そのような中、表に発信する無線が、少ない人口の中で非常に有効なのか、つまり、あれは管理運営していくにもかなりの費用もかかります。そのようなことから、これは今すぐという意味ではなくて、デジタル化になってから、将来的には、雨とか風が強いときには聞き取りづらい場合もある外の発信よりも、室内におけるアプリからの音声の発信だとか、それにかわるデジタル化した受信機だとか、そういうものに順次変えていくほうが、より住民にとって正確で早い情報が入るのかなというふうに考えております。以上でございます。

○議長（岩瀬洋男君） ほかに質疑はありませんか。藤本治議員。

○1番（藤本 治君） 公共施設の計画については、これから具体的な対象は検討するというところで

理解しました。

道の駅についても、素直に、手順が不十分さはあるということをお認めいただいたと思いますが、ぜひ今後はこういうことのないようにしていただきたいのと、今回まとまる計画、そして実施の形態、まとも次第お示しいただきたいと思います。

それから、デマンドタクシーの対象は、地域を設定したら、その全世帯という理解でよろしいでしょうか。

生活保護についてですけれども、他課からの照会による生活保護の受給に結びつくような相談が一件もなかったということ、まことに驚くんですけれども、前にも私は一般質問で、野洲市の、よく滞納してくださいましたという市のほうの対応を紹介させていただいたことがありましたけれども、滞納するという事態が生じている市民がいて、そのことがどこから起こっているのかということで、野洲市の場合は、全庁挙げて、各課のスタッフが一堂に会して情報を共有するということの理解を得た上でやっているんですけれども、対応しておりました。そういう市の対応ぶりと比べると啞然とするようなご回答ですけれども、勝浦市の市民の生活状態が、過去6年間にわたって生活保護の受給者の推移を今お答えいただきましたけれども、年々人数が少なくなるほど経済状況は好転しているわけではないと思うんです。市民一人一人の暮らしぶりは、せいぜい、よくて前と同じという程度で、よくなっている方というのは非常に少ないと思うんです。悪くなっている方のほうが多くいらっしゃるのではないかと思います。そういう状態の中で、きちっと生活困窮状態を捕捉して、それを最後のセーフティーネットである生活保護につなげていく、そこは非常に大切だと思うんですけれども、福祉課は、実際に困っている方、本当に救いが必要な方を捕捉できる力が非常に弱まっているのではないかと思いますけれども、そういう点でのご認識、自覚というのはどうでしょうか、ご認識はありますでしょうか。捕捉できていないというご認識があるのではないかと思いますけれども、いかがでしょうか。

それから、健康増進事業については、ぜひ近隣の取り組みを調べていただいて、善処、対策を講じていただけたらと思いますので、よろしくお願いします。

それから、地域おこし協力隊に期待する内容につきましては、よくわかりました。出店につきましては、地域おこし協力隊に限らず、またいろいろな手だてを講ずる必要があるのだらうと思いますけれども、この出店が1件見込めるとしても、そのほかにどういう出店を促す取り組みをされていくおつもりか伺っておきたいと思います。

最後の防災無線の受信につきましては、いろいろな検討をされているということはわかりましたけれども、今後どういう対応をするのか、非常に難しい面があるなど、お答えを聞きながら思いましたけれども、これは、いざというときに、ある意味では決定的な情報の提供手段になりますし、このことが一歩おくれると人命にかかわってしまうということもあり得ますので、かなり慎重な、そして、ある意味では決断の要る選択もあるのではないかと思います。そういう点では、これということ今判断する材料は余りないんですけど、十分な検討をぜひお願いしたいと思いました。以上です。

○議長（岩瀬洋男君） 答弁を求めます。軽込企画課長。

○企画課長（軽込一浩君） お答えいたします。デマンドに関します公共交通空白地域の対象者への調査の関係でございますけれども、対象者につきましては、まず対象地域でございますけれど

も、川津地区と総野地区、これらの世帯数がおよそ1,650世帯、このうち65歳以上は1,400名余りということで、さらに、これらの方々のうち、最寄りのバス停から300メートル以遠の方を対象に、現在では1,000人程度と見込んでおります。これらの方に調査をかけたいたいということでございます。以上でございます。

○議長（岩瀬洋男君） 次に、関福祉課長。

○福祉課長（関 富夫君） お答えいたします。生活保護になるような方について、こちらから声かけのような形でするのはなかなか難しいところがございます。例えば明らかにこの方は生活保護になるなというような方がいらっしゃるにしても、かたくなに、生保にはなりません、国の世話にはなりませんというような方も中には、市内にもいらっしゃるような状況です。そういうようなことで、例えばこちらから声かけをしまして、その人の気持ちを傷つけたりとか、いろいろなことがありますので、こちらから、どうですかということをなかなか言いにくいところがありますので、基本的には、なるべく自分自身から、お困りのときはご遠慮なく相談していただくことを望んでいるところでございます。以上です。

○議長（岩瀬洋男君） 次に高橋観光商工課長。

○観光商工課長（高橋吉造君） お答えいたします。朝市の出店者拡大について、地域おこし協力隊のほかには何かあるかということでございますけれども、まず、出店しやすい環境づくり、先ほどもお答えさせていただきましたが、運営主体がこの4月から変わるという形をきっかけにして、出店のルールを見直すことによって、出店しやすい環境を整えて拡大を図っていきたい。さらに、出店の募集の方法についても、また改めて考えていきたいと思っております。以上でございます。

○議長（岩瀬洋男君） ほかに質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（岩瀬洋男君） これをもって一般会計予算の質疑を終結いたします。

次に議案第22号 平成30年度勝浦市国民健康保険特別会計予算、議案第23号 平成30年度勝浦市後期高齢者医療特別会計予算、議案第24号 平成30年度勝浦市介護保険特別会計予算、議案第25号 平成30年度勝浦市水道事業会計予算、以上4件を一括して質疑を行います。

質疑に際しましては議案番号を、事項別明細書はページ数をお示し願います。ページ数は233ページから355ページまでです。

ただいまのところ通告はありません。質疑はありませんか。藤本治議員。

○1番（藤本 治君） では、順を追って、第22号の国保からお伺いしたいと思います。ページとしては249ページになるかと思うんですが、事業納付金が計上されているわけですが、その算定の根拠に、県が最終的に示した10万円余の標準保険税額が勝浦市には示された、そのことが根拠になって市は計上されたんだと思うんです。その標準保険税が決められた中身が、勝浦の場合は前期高齢者に係る精算金が1人当たり4,000円ということで一般質問の中で示されたんですけれども、この精算金がどこに計上されているのかという質問ですけれども、多分私が示した249ページに込みになっているのかなと思うんですけれども、その辺を確かめたいと思います。

それから、この事業納付金に係る費用を歳入の保険税からと、それから一般会計から繰り入れられる2億円余りの繰入金がありますけれども、その中の一部が納付金に充当できる、そう

いう資金になるのかなと思うんですけれども、その辺を、この予算書に従ってご説明いただけたらと思います。

次の議案第23号の後期高齢者医療特別会計についてですけれども、ここは、いわゆる保険料を集めて、広域連合に対する納付金を納めるという会計になっているんですけれども、後期高齢者の事業の中では、歯科健康診査という事業が行われておりまして、勝浦でも平成28年度にお1人受けていらっしゃるという事業ですけれども、75歳になられた方が対象になっておりまして、平成28年度は、勝浦市は、誕生日を迎えられた75歳の方々は282人いらっしゃったんですけども、そのうちのお1人が受診をされたという事業です。隣の大多喜町では117人の対象者に対して17人がお受けになって、県内でも高い受診率の15%を記録されているんですけれども、こういう事業がどこにも予算計上されていないんですけれども、どういう事業が、どういう事業費のもとで行われているのかなというのがわかりませんので、お尋ねします。

次の、議案第24号の介護保険特別会計につきましては、7期の計画の中で、訪問介護とか、通所介護、介護老人福祉施設、それぞれにつきまして漸増するというか、年々増えていくという事業推計がされておりますけれども、通所介護につきましては、総合事業でやる分と、保険給付でやる分と、それから地域密着型の通所介護ということで、3種類に分かれていると思うんです。それぞれが計画数値が算定されているんですけれども、全体としては増えているように思われるわけですけれども、3つに分かれておりますので、事業費は単純に第6期と比較できないものですから、事業全体が通所介護では増えていると思われるんですけれども、実際はどうか。また、3つに分かれているということは何ゆえか、そのことによって3つの内容にどういう違いが生じているのかというお尋ねをしたい。

それから、介護老人福祉施設、福祉施設ですから特別養護老人ホームだと思うんですけれども、勝浦市内では建設予定はありませんが、近隣で建設されるということですが、それはどこで施設がつくられて、勝浦市からの利用が見込まれるというのは、どこの施設のことなのかをお伺いしたいと思います。

続いて、水道料金についてですけれども、高料金対策補助金を受けている近隣の、夷隅郡市2市2町で結構ですけれども、最新の活用額をお尋ねします。

それから、有収率についてですけれども、347ページで提案説明を受けましたけれども、ここにある、収入と支出というふうに分類されていますけれども、支出においては4分の4、100%のお水をつくり出すための支出がこれだけの支出として計上され、そして、収入のほうでは水道料金からの収入が計上されているんですけれども、これは100%のうち4分の3、75%程度が実際のお水から水道料金として換金をされたということですから、4分の4、100%の水を、4分の3の水道料金によって換金することで賄われているということなので、大ざっぱに考えても、水道料金がそのことによって相当引き上げの圧力になっているなというふうに思いますので、この有収率が水道料金に及ぼす影響というのは相当大きなものがあるのではないかなと思うんですけれども、こういう収支で見るとバランスはとれているんですけど、バランスの中身としては、有収率というのが水道料金を引き上げる要因としては、相当の上昇圧力要因になっているのではないかなと思いますけれども、担当者のご認識をぜひお伺いしたいと思います。

○議長（岩瀬洋男君） 答弁を求めます。植村市民課長。

○市民課長（植村 仁君） お答えいたします。まず1点目の国保事業納付金におけます、前期高齢

者交付金の差額がどこで計算されているかということでございますけれども、一般質問の答弁の中でも説明させていただきましたけれども、県から市町村に配分される国保事業納付金、その計算の中で経費や補助金等を加算・減算するということですので、その時点で今回は精算分で1人当たりの保険税として4,000円分多く支払うということになってございます。

前期高齢者交付金についての説明をさせていただきますと、国保の歳入、前期高齢者交付金につきましては、65歳から74歳までの前期高齢者の加入率が全国平均を上回る保険者は社会保険診療報酬支払い基金から交付金を受け取るようになっております。前期高齢者納付金及び前期高齢者交付金は、2年前の確定値を用いて算出する概算分と、その2年後に実際の確定値を用いて算出する精算分がございまして、今回の30年度の計算では、28年度分の精算ということで、1人当たりの保険税4,000円引き上がるという影響になっております。

2点目の国保事業納付金の財源となるものということでございますけれども、まず、国民健康保険税と、あと、一般会計繰入金の部分で保険基盤安定繰入金、保険税軽減分とか、保険基盤安定繰入金、保険者支援分等の一般会計繰入金を加えたものを事業納付金として納めることとなります。

次に、後期高齢者特別会計の歯周口腔健康診査事業についてでございますけれども、この事業は千葉県後期高齢者医療広域連合が実施しておりまして、平成28年度より、被保険者の口腔機能低下や誤嚥性肺炎等の疾病予防、口腔機能の維持改善を目的としまして、千葉県後期高齢者医療広域連合が県の歯科医師会へ委託し実施しております。この事業の対象者は、前年度に75歳になられた方、当該年度に76歳になる方が対象となります。被保険者の支払う料金は、負担はございません。実施期間は、平成29年度で申しますと、6月1日から10月31日までの5カ月間となります。市町村は、事務委託として、対象者が歯医者にかかるときに提出する受診票の発行をしております。ですので、委託料等の予算の計上はございません。以上でございます。

○議長（岩瀬洋男君） 次に、大森介護健康課長。

○介護健康課長（大森基彦君） お答え申し上げます。私から、まず1点目、第7期の計画に関しまして、訪問介護、通所介護、施設等ある中で、どういう伸びになっているかというところでございますが、まず、介護予防給付のほうは、事細かく見ていけば上げ下げがあるところがございます。これを一つ一つ申し上げますと、居宅系サービス、介護給付の中の居宅サービスで、サービス14、地域密着型サービスで9、施設サービスで4、あと、居宅介護支援、これはケアマネジメントの関係です。そのような形の数がございまして、介護予防事業のほうも3つに分かれておりまして、介護予防サービスが14、地域密着型介護予防サービスが3、居宅介護予防支援、これはケアマネジメントですが、これが1ということで、これを一つ一つ見ていきますと上げ下げがあるところがございます。

それで、これを予算書のベースに組み直しますと、まず、通常介護給付のほうでいきますと、居宅介護サービスが30から32、ですから今回7期の計画と平成29年度の実績を比較しますと6.0%の増、施設サービスのほうが8.3%、居宅介護の福祉用具購入が1.3%、住宅改修が61.6%、居宅サービス計画給付費、これはケアマネジメントですけれども、1.0%、地域密着型サービスが14.7%の増ということになっております。

介護予防のほうにいきますと、介護予防サービスの給付が62.5%、福祉用具購入が67.4%、

住宅改修が84.1%、介護予防サービス計画給付費が94.6%。

地域密着型のほうは、実績はございませんが、場合によってはあるということを想定いたしまして、261万6,000円を計上しているところでございます。

これを合計しますと、全体で7.5%の増。これは平成29年度と平成30年度の比較ではなくて、30から32の平均値と、要は7期の計画の数値と平成29年度の実績、これを予算書のベースとして組み替えたならこういうことになったというところでございます。当然、介護予防の訪問介護、それから介護予防の通所介護につきましては、予防のほうは地域支援事業のほうに移っておりますので、それは地域支援事業のほうに入れて計算しております。

なぜこのような段階になったかといいますと、これは経理上の問題でございます。地域密着型サービスというのは、通常の介護サービスではなく、規模を縮小して、より家庭的な雰囲気の中で介護を受けていただくというサービス、これが地域密着型サービスでございます。認知症等ある方につきましては、施設の職員の顔もなかなか覚えづらい。そうすると、大きな施設で大勢の職員だと顔が覚えづらいということから、入所されている方につきましてもいろいろ不都合が生じますので、少ない人数で少ない方を見ようというのが地域密着型サービスでございます。これが創設されましたので、こういうような経理状況になっているというところでございます。

次に、近隣での予定でございますが、近隣の施設の状況につきましては、いすみ市で特別養護老人ホーム、これは第6期の計画で整備されまして、7期から開設するということになっております。これの勝浦市の対象といいますか、勝浦市の枠といいますか、それは10人と伺っております。ですので、その分を見込んで今回の計画はつくっているところでございます。以上でございます。

○議長（岩瀬洋男君） 次に、大野水道課長。

○水道課長（大野 弥君） お答え申し上げます。1点目の2市2町の高料金対策の状況でございますけれども、平成28年度決算の数値を申し上げます。いすみ市は、一般会計からの繰り出しは2億3,387万7,000円、県からの補助金の交付額は2億2,852万4,000円、大多喜町は、一般会計からの繰り出しが7,300万円、県からの交付金が6,959万7,000円、御宿町は、一般会計から2,000万円、県補助金が1,898万5,000円、以上のような状況になっております。

2点目の、有収率の低さが及ぼす影響についてでございますが、議員おっしゃるように、収益的収入及び支出の支出については、給水量全てに係る費用という形で計上しておりますが、現状、水道料金については、今回、有収水量229万3,000立方メートルということで、75.8%を見た、その料金に係る収益を上げてございますので、当然その有収率が上がることによって、事業費用、営業費用のほうは削減が図れますので、それによって純利益が増加することは当然だと考えますので、担当としては、改善を図っていつて、この大きな課題を解消していく必要があると認識しております。以上です。

○議長（岩瀬洋男君） 質疑の途中ですが、午後2時15分まで休憩いたします。

午後2時04分 休憩

午後2時15分 開議

○議長（岩瀬洋男君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

ほかに質疑はありませんか。藤本治議員。

○1番（藤本 治君） 国保の再質問をさせていただきます。にわかには新しい制度に変わったということもあって、理解がしがたいところがあるので、改めてページもお示しいただきながらご答弁いただけたらと思うんですが、県からは、歳入のほうで県支出金として交付金が、特に医療給付費に充てる等の交付金が18億円出てきます。それに対して市は、歳出で、県に対して、事業費納付金ということで納付します。それが5億何がしであるわけです。さっきの精算金ですけども、それはどちらの費用にあるのか、あるいはそれ以外のところに計上されているのか、その辺を、改めてページ数を示してお伺いしたいと思うんです。

それから、この納付金に充当できる国保税以外の費用は、ページで言うと、238ページの繰入金、一般会計繰入金のうち、1、2、3、4、5とあります。職員給与の繰入金なんか充てるわけにいかないわけですから、このうちのどの部分が納付金に充てることができるのか、改めてページを開きながらご説明をいただきたいことと、あと、後期高齢者のほうの費用につきまして、歯科健康診査は県の事業であって、県が直接、広域は、それぞれいすみ市の歯科医院と委託費をやりとりしているということだと思うんですけれども、私が申し上げたいのは、市が委託を受けている受診票の交付にとどまらず、勝浦市の事業として、この制度の周知をして、282人程度の方々が誕生日を迎えた方ですので、この方々に個別のご案内をして、無料でこういう検診ができますから受診してくださいというご案内をして、大多喜のように15%という形で受診率が上がるような取り組みをやるには、費用はないので、今のままではできないわけですから、後期高齢者の会計の中に、勝浦市としてそういう事業費を設けて、郵送費用とか、そういうことで対象者に周知をすることができないのかどうかということをお尋ねしております。

それから、介護保険ですけども、費用は、いろいろな取り組みがありますので、それぞれ全体と言うわけにいかないから、個別に説明しないといけないとなると膨大な説明になってしまうわけですので、大まかに右肩上がりでも利用状況も増えていくということで理解しておりますが、これらの費用を賄うための保険料が、3期ごとに右肩上がりでも上昇しております。今回大幅な増税を市民にお願いするという議案ですけども、これを軽減するためには、根本的には公費負担割合5割・5割という比率を改善する、公費負担割合を引き上げるということだと、現在、公費の投入が5割・5割の比率のもとでも公費の投入が行われて、低所得者に対しては軽減のための公費投入は今現に行われているんじゃないかと思うんです。そういう形の公費投入の拡充というのも、全体の費用を、市民の保険料負担を軽減する道ではないのかと思うんです。根本的な軽減策はその2つの道なのではないかと思うんですが、ご認識をお伺いしたいと思います。

水道料金につきましては、有収率の改善のために、近隣、いすみ市、大多喜町、御宿町の1市2町がそれぞれ努力をしてそれを引き上げていらっしゃるわけですから、ぜひ足を運んで現場も見ながら、そういう努力がどのようにしてなされて、どういう結果を生み出しているのかを実地に見てきていただきながら、即座に勝浦に学びとって生かせることではないかと思っておりますので、それをぜひ勝浦に生かしていただいて、目覚ましい改善、変化が起こるようにしていただきたいと思うんですけれども、いかがでしょうか。以上です。

○議長（岩瀬洋男君） 答弁を求めます。植村市民課長。

○市民課長（植村 仁君） お答えいたします。まず、1点目の国保事業納付金の前期高齢者交付金

の精算分がどこに入っているかということでございますけれども、ページでいきますと、249ページの3款国民健康保険事業納付金、1目一般被保険者医療給付費分、この本年度予算4億7,233万8,000円、この額は県から示された数値ですけれども、その示される数値の県のほうの計算の段階で交付金が精算されるということでございます。

2点目の、納付金の財源ですけれども、先ほど私、一般会計繰入金から保険税ということで納付金を支払うということでしたけれども、もう一点、追加する財源がありますので、訂正させていただきます。

249ページの国民健康保険事業納付金、同じように1目の一般被保険者医療給付費分で申しますと、本年度予算が4億7,233万8,000円。財源として、まず237ページ、4款の県支出金、この財源から2,036万6,000円。249ページを見ていただきますと、特定財源という内訳があると思えますけれども、一般被保険者医療給付費分の本年度財源内訳、この中に国県支出2,036万6,000円とございますけれども、これが歳入でいきます237ページの4款の県支出金、この財源と、あと、また249ページに戻っていただきまして、その他の1億2,017万円8,000円、これが歳入でいきます238ページの6款の繰入金、保険基盤安定繰入金、保険税軽減分、保険者支援分、あと、5番の財政安定化支援事業繰入金、この財源から充てられることとなります。

続きまして、3点目の後期高齢者特別会計の歯周病疾患の関係でございますけれども、今後、近隣の周知方法等を状況を見ながら対策を講じていきたいと考えます。以上でございます。

○議長（岩瀬洋男君） 次に、大森介護健康課長。

○介護健康課長（大森基彦君） お答え申し上げます。私からは、保険料、今回上がるという形で出ています。これを下げるためには、公費負担の割合を引き上げるべきだというお話でございました。確かに、議員おっしゃるとおり、公費負担5割になっておりますが、現在、消費税が8%に上がったことによりまして、第1段階、通常ですと0.5を掛けるところですが、それが0.45、ですから、そのうちの0.05分につきましては公費負担ということで、実質的に50%以上の公費は入っておるところでございます。ただ、この介護保険制度というのは、方式いろいろあるんですけれども、社会保険方式、いわゆる利用される対象になる方がお金を出し合って支えていきたいと思いますといったようなものが根本にあります。また、それに対しまして、介護保険の制度につきましては、公的にも一定の責任を持つことが必要であるということから、今回の介護保険事業制度におきます費用につきましては公費半分、保険料半分という形になっているというふうに理解しております。ですので、これにつきましては、一概には何とも申し上げられないところではございますが、これは何分国の制度でございますので、国の動向を注視してまいりたいと考えております。以上でございます。

○議長（岩瀬洋男君） 次に、大野水道課長。

○水道課長（大野 弥君） お答え申し上げます。有収率改善に向けて、近隣のよい点を検討してみてもどうかというご質問ですけれども、私も会議等で近隣の担当と会うと、勝浦市は有収率悪いので、どういう対策を講じているか、情報交換しております。今回、一般質問が出たに当たって、改めて近隣に電話照会等して近隣の状況を確認して、いすみ市で過去に給水管の改修を集中的にやって改善されたとか、大多喜町で水道管業務を経験した職員のOBを採用して有収率の強化に当たったとか、改めてそういう情報を得たのですが、一般質問でも回答したように、うちのほうでも、平成23年度以降、給水管の改修も本管の工事にあわせてやっている。これは

ちょうどいすみ市と時期が同じぐらいなので、そこは情報交換したのかどうか定かではないですが、今後においても、有収率の改善は非常に大事なことなので、近隣の担当者と情報交換をして、見習うべき点はどんどん前向きに検討していきたいと思います。以上です。

○議長（岩瀬洋男君） ほかに質疑はありませんか。藤本治議員。

○1番（藤本 治君） 国保に関しましては、制度が変わって、どういうふうに予算上あらわれているかということでお尋ねしました。わかりにくさはあるんですけども、相当大幅な変更になっているということが理解できたのと同時に、この中には納付金ということで一くくりになっているので、その内訳の中に何が含まれているのか、こうして根掘り葉掘りご説明をお伺いしないと、なぜこの納付金額なのかということがわからない状態、言ってみれば、県から言われたら、そのことについて疑義を挟む余地があるのかどうかという印象を持ちます。言われるままに払わざるを得ない、そういうことになっているのではないかという気持ちがします。納付金と交付金ということで、今後、県と市との税の関係になっていくと思われまじけれども、これは、将来、後期高齢者の予算書を見ていただいてもわかるように、勝浦市民にとって密接な事業費は全然計上されておりませんので、私に取り上げた歯科健康診査という事業一つとってみましても、全然ここにはあらわれてきていなかったわけです。今回そういうことでお調べいただいて対応を考えていただくことになりますけれども、これはぜひ事業費としても勝浦市独自でやらないとできないことですから、75歳を迎えた対象者に個別の案内を送るだとかという事業を、ぜひ検討して創設していただきたいと思います。いずれ、こういう後期高齢者のような姿に国保自体がなくなってしまうのではないかというような危惧を感じます。

それから、介護保険については、国の制度の改善を根本から求めていかなくてはいけない。でないと、団塊の世代が75歳になる2025年まで、もう絶対下がることはないということですし、それ以後についても、うなぎ登りに登ったものが横ばいになる程度の見通しということになれば、利用料の2割負担、そして給付を受けられる範囲が非常に重度の介護を要する方々だけになってしまうような制度、保険あって介護なしという制度になってしまうのではないかというのが本当に危惧されるところです。そういう点では今回の大幅な引き上げを市民の負担に委ねるだけでは済まないということを痛感いたします。

水道料金につきましては、有収率の改善を努力していただくこととあわせて、ぜひ、いすみ市で2億3,000万円、大多喜町で7,300万円、御宿町で2,000万円という、それぞれの市や町が市民や町民の水道料金負担を軽減するために、そういう一般会計の繰り出しを行って、県の補助金を得て水道料金引き下げを平成28年度も実行しておりますし、今もやっているわけなので、ぜひ勝浦でも、平成36年度を目指して進んでいる統合の前に、前倒しをして勝浦市の水道料金を引き下げるために、県の高料金対策補助金を活用するよう、市長に、その英断を求めたいと思いますので、そのことを最後に質問して、終わります。

○議長（岩瀬洋男君） 答弁を求めます。猿田市長。

○市長（猿田寿男君） これももう一般質問等でもいつもお答えしているとおりでございます。お金があれば、本当に近隣のようにいたしたいなと思いますけれども、今、うちのほうでは、事業もいろいろなものが進んでおりまして、財源的になかなか厳しいということで、今のところはまだそれは難しいということでございます。以上です。

○議長（岩瀬洋男君） ほかに質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（岩瀬洋男君） 以上をもちまして各会計予算の質疑を終結いたします。

お諮りいたします。ただいま議題となっております議案第21号ないし議案第25号、以上5件につきましては、6人の委員をもって構成する予算審査特別委員会を設置し、これに付託の上、審査することにしたいと思っております。これにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（岩瀬洋男君） ご異議なしと認めます。よって、本案の5件につきましては、6人の委員をもって構成する予算審査特別委員会を設置し、これに付託の上、審査することに決しました。

ただいま設置されました予算審査特別委員会の委員の選任につきましては、勝浦市議会委員会条例第5条第1項の規定により、磯野典正議員、久我恵子議員、末吉定夫議員、鈴木克己議員、土屋元議員、松崎栄二議員、以上6人の議員を指名いたします。

請願・陳情の委員会付託

○議長（岩瀬洋男君） 日程第2、請願・陳情の委員会付託であります。今期定例会において受理した請願・陳情は、お手元へ配付した請願・陳情文書表のとおり、所管の常任委員会へ付託いたしましたから、ご報告いたします。

休会の件

○議長（岩瀬洋男君） 日程第3、休会の件を議題といたします。

明3月7日から14日までの8日間は、委員会審査等のため休会といたしたいと思っております。これにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（岩瀬洋男君） ご異議なしと認めます。よって、3月7日から14日までの8日間は休会することに決しました。

なお、各委員会は、会期日程表に基づきまして付託事件の審査をお願いいたします。

3月15日は、午前10時から会議を開きますので、ご参集を願います。

散会

○議長（岩瀬洋男君） 本日はこれをもって散会いたします。ご苦労さまでした。

午後2時35分 散会

本日の会議に付した事件

1. 議案第21号～議案第25号の上程・質疑・委員会付託
1. 請願第1号・陳情第1号～陳情第4号の委員会付託
1. 休会の件